

国道11号高松東道路関連整備事業
東山崎町51号線道路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

水田遺跡

(第2次調査)

2020年3月

高松市教育委員会

例 言

- 1 本書は、国道11号高松東道路関連整備事業のうち、東山崎町51号線道路整備事業予定地における発掘調査報告書であり、香川県高松市東山崎町に所在する水田遺跡（第2次調査）の報告を収録した。
- 2 発掘調査地及び調査期間、調査面積は下記のとおりである。
調 査 地：高松市東山崎町502-3 ほか
調査期間：平成30年2月5日～3月7日（実働20日）
調査面積：304.6㎡（第1調査区89.3㎡、第2調査区215.3㎡）
- 3 発掘調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員 船築紀子及び同非常勤嘱託職員 森原奈々が担当した。
- 4 整理作業・報告書の執筆は第II章を森原が、第I・III・IV章及び編集は、船築が担当した。
- 5 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係機関から御教示を得た。記して厚く謝意を表す。
香川県教育委員会
- 6 本報告書の標高は東京湾平均海面高度を基準とし、座標は国土座標第IV系（世界測地系）を用いた。また、方位は座標北を示す。
- 7 下記の業務は、委託業務として行った。
基準点打設業務委託：株式会社四航コンサルタント
掘削業務委託：松内建設株式会社
出土遺物保存処理：株式会社イビソク
遺物写真撮影：西大寺フォト
- 8 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物 SD：溝 SK：土坑 SP：柱穴 SX：性格不明遺構
- 9 本書で使用している挿図の縮尺は、図中に記した。また、遺物の写真図版の縮尺はすべて任意である。
- 10 本書で使用している土色、土器の胎土については、農林水産省農林水産技術会議事務所監修 新版標準土色帖を使用した。
- 11 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会で保管している。

【参考文献】

- 香川県 1989 『香川県史 第2巻 通史編 中世』 四国新聞社
- 香川県教育委員会 1992 『東山崎・水田遺跡』 高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊
- 香川県教育委員会 2000 『空港跡地遺跡Ⅳ』 空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊
- 高松市教育委員会 1999 『川南・西遺跡』 都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書第1冊
- 高松市教育委員会 2016 『水田遺跡』 高松市埋蔵文化財調査報告第170集
- 高松市教育委員会 2019 『東山崎・水田遺跡』 高松市埋蔵文化財報告第205集
- 香川県歴史博物館 2007 『特別展海に開かれた都市～高松～港湾都市900年のあゆみ～』
- 香川県立ミュージアム 2017 『特別展 讃岐びと、時代を動かす一地方豪族が見た古代世界一』
- 角川日本地名大辞典編纂委員会 1985 『角川日本地名大辞典 37香川県』 株式会社角川書店
- 古代の土器研究会編 1993 『都城の土器集成Ⅱ』
1994 『都城の土器集成Ⅲ』
- 佐藤竜馬・小野秀幸・海邊博史編 2007 『港町の原像—中世港町・野原と讃岐の港町—』 四国村落遺跡研究会
- 佐藤竜馬 2016 『讃岐における古代～中世土器編年をめぐる基礎作業（1）』 香川県埋蔵文化財センター年報 平成26年度
- 中世土器研究会 1995 『概説中世の土器・陶磁器』 真陽社
- 古高松郷土誌編集委員会 1977 『古高松郷土誌』
- わが町の文化財探訪編集委員会 2007 『わが町の文化財探訪 高松市の文化財シリーズ第15編』 高松市文化財保護協会

目次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 発掘調査の経過（調査日誌抄）	1
第3節 整理作業の経過	1
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3
第Ⅲ章 調査成果	5
第1節 発掘調査の方法	5
第2節 発掘調査の成果	5
第Ⅳ章 総括	22
第1節 検出遺構・遺物について	22
第2節 水田遺跡周辺の地形と集落の展開について	22
遺物観察表	24

挿 図 目 次

第1図	調査区配置図(1/5,000)	2
第2図	周辺の遺跡(1/25,000)	4
第3図	調査区配置図(1/250)	6
第4図	第1調査区 第1遺構面平面図(1/100)	7
第5図	第1調査区 第2遺構面平面図(1/100)	8
第6図	第1調査区 断面図①(1/40)	10
第7図	第1調査区 断面図②	11
第8図	第1調査区 SX01平面・断面図(1/40)	12
第9図	SX01最上層出土遺物(1/4)	13
第10図	SX01下層出土遺物(1/4)	13
第11図	SX27出土遺物(1/4)	13
第12図	第1調査区 SK04・SK10・SD18・SB01平面・断面図(1/40)	14
第13図	SK出土遺物(1/4)	16
第14図	SP出土遺物(1/4)	16
第15図	包含層出土遺物(1/4・1/2)	16
第16図	重機掘削・その他出土遺物(1/4・1/2)	16
第17図	第2調査区 平面図(1/100)	17
第18図	第2調査区 西壁断面図(1/40)	19
第19図	SD30上層出土遺物(1/4)	20
第20図	SD30溝肩出土遺物(1/4)	20
第21図	SD30下層出土遺物(1/4)	20
第22図	水田遺跡周辺の地形と集落の展開	23

挿 表 目 次

第1表	遺物観察表①	24
第2表	遺物観察表②	25
第3表	遺物観察表③	26
第4表	遺物観察表④	26

写真図版目次

写真図版 1

- 1 調査区周辺全景（南東から）

写真図版 2

- 1 第1調査区 第2遺構面全景（南から）
- 2 第2調査区 全景（南から）

写真図版 3

- 1 第1調査区 SX01完掘状況（東から）
- 2 第1調査区 調査区北側完掘状況（北から）

写真図版 4

- 1 第2調査区 完掘状況（北から）
- 2 第2調査区 SD30完掘状況（南西から）

写真図版 5

- 1 第1調査区 SK10 断面（南西から）
- 2 第1調査区 SD18 平面・断面（北東から）

写真図版 6

- 1 第1調査区 西壁断面①（東から）
- 2 第1調査区 西壁断面②（北東から）

写真図版 7

- 1 第2調査区 SD30西壁断面①（東から）
- 2 第2調査区 SD30西壁断面②（東から）

写真図版 8

- 1 第2調査区 SD32断面（東から）
- 2 第2調査区 SD30東壁（西から）

写真図版 9

- SD30 出土土器
SX01・27 出土土器

写真図版 10

- SD30 出土土器（1）

写真図版 11

- SD30 出土土器（2）
SX01・27 出土土器

写真図版 12

- SP21 出土土器
SP05 出土土器
SP20・21・23 出土土器
SK04 出土土器
SB01-SP11 出土土器
重機掘削 出土土器
攪乱層 出土土器
SP05 出土土器
包含層 出土石器

第 I 章 調査の経緯と経過

第 1 節 発掘調査の経緯（第 1 図）

高松市東山崎町 5 0 2 - 3 ほかにおいて、国道 1 1 号高松東道路関連整備事業が計画された。事業地の北側には、周知の埋蔵文化財包蔵地である水田遺跡が所在していることから、高松市都市整備局道路整備課（以下、事業課）から、市道東山崎 5 1 号線道路改良工事に先立ち、事前の試掘調査の依頼を受けた。これに伴い平成 2 9 年 8 月 2 8・2 9 日（実働 2 日）で試掘調査を実施した。その結果、事業対象地の一部で遺構と遺物を確認し、周知の埋蔵文化財包蔵地「水田遺跡」の範囲として追加登録された。

この後、事業課と高松市文化財課とで整備事業の取扱いについて協議を行い、平成 3 0 年 1 月 2 9 日付けで事業課から県教委に対し、文化財保護法第 9 4 条第 1 項による埋蔵文化財発掘の通知が行われ、同 3 1 日付けで県教委から工事着手前に発掘調査を実施するよう指導を受け、発掘調査を実施することとなった。

第 2 節 発掘調査の経過（調査日誌抄）

発掘調査は対象地内にある市道を挟んで北側を第 1 調査区、南側を第 2 調査区とし、第 1 調査区から調査を実施した。

発掘調査は平成 3 0 年 2 月 5 日から第 1 調査区に着手し、平成 3 0 年 3 月 7 日に現地での作業が終了した。主な調査内容は、下記調査日誌のとおりである。

調査日誌抄

（平成 3 0 年 2 月 5 日～3 月 7 日 実働 2 0 日）

2 月 5～6 日	第 1 調査区重機掘削
2 月 7 日	第 1 調査区第 1 面 遺構検出、攪乱掘削
2 月 8～9 日	第 1 調査区第 1 面 SX 0 1・2 7 掘削、ピット掘削、遺構平面図作成
2 月 1 4 日	第 1 調査区第 1 面 遺構面清掃・斜め写真撮影、第 1 面包含層掘削
2 月 1 5 日	第 1 調査区第 2 面 遺構検出、遺構掘削、西・南壁写真撮影、壁断面図・平面図作成
2 月 1 6 日	第 1 調査区西南壁断面図・平面図作成、下層確認掘削 (第 1 調査区調査終了)
2 月 1 9～2 1 日	第 2 調査区重機掘削
2 月 2 1 日	第 2 調査区遺構検出、攪乱掘削、遺構配置図作成
2 月 2 2 日	第 2 調査区遺構検出、攪乱掘削、SD 3 0・3 1 掘削、遺構配置図作成
2 月 2 3～2 6 日	第 2 調査区 SD 3 0・3 1 掘削、遺構平面図作成
2 月 2 7 日	第 2 調査区 SD 3 0 掘削、平面図作成
2 月 2 8 日	第 2 調査区 SD 3 0 掘削、西壁断面図・平面図作成
3 月 1 日	第 2 調査区 SD 3 0 掘削、西壁断面図・平面図作成、遺構面清掃
3 月 2 日	第 2 調査区斜め写真・西壁写真撮影、西壁断面図・平面図作成
3 月 5 日	道具片付け
3 月 7 日	第 2 調査区下層確認掘削 (第 2 調査区調査終了)

第 3 節 整理作業の経過

調査終了後、平成 3 0 年度 4 月から本格的に整理作業を開始した。まず、同年 4～9 月に遺物の洗浄や接合作業等、基礎整理作業を行った。その後、1 0 月～平成 3 1 年 1 月において、遺物の実測作業を行った。2～3 月において、遺構図及び実測図のトレース作業を行った。平成 3 1 年度においては原稿の執筆や編集作業を中心に進めた。なお、整理期間中に出土遺物の写真撮影を西大寺フォトに委託して実施するとともに、出土遺物の保存処理を株式会社イビソクに委託した。

第二章 地理的・歴史的環境

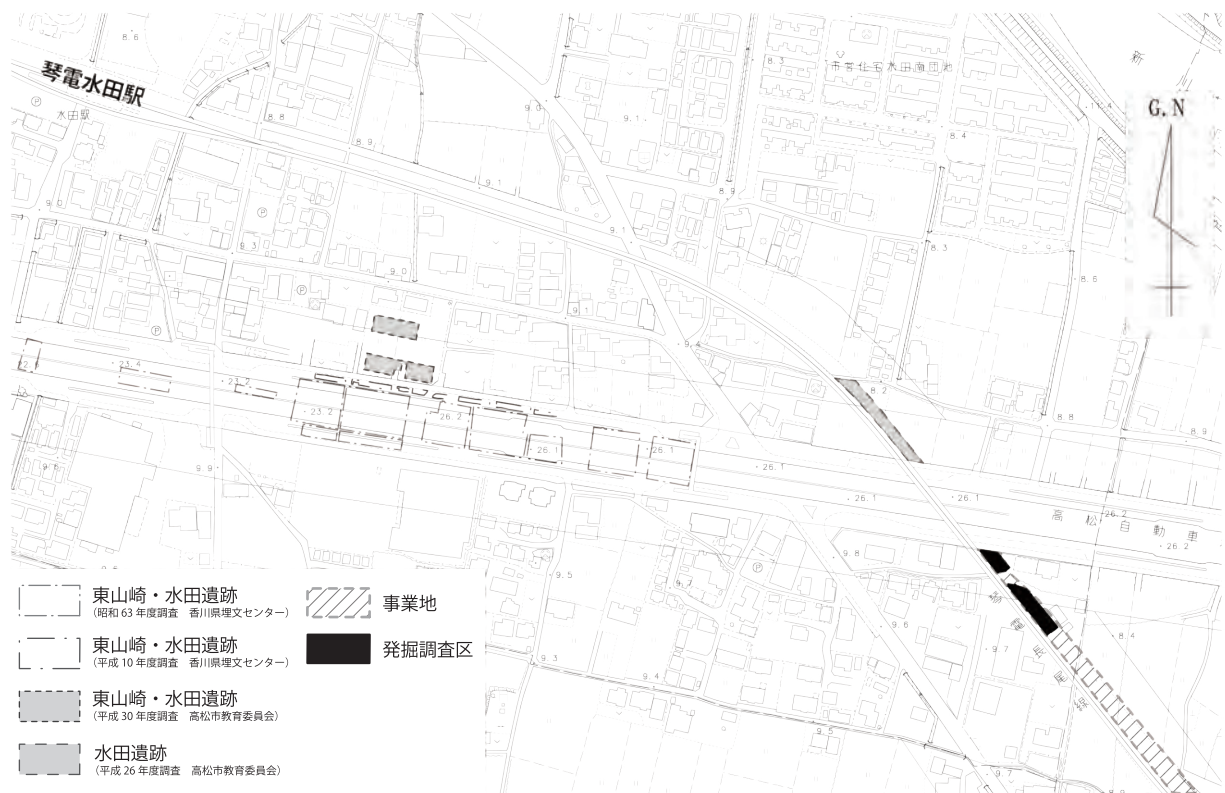
第1節 地理的環境（第2図）

本遺跡は高松平野東部に所在し、東は立石山山塊、北は屋島と瀬戸内海をのぞむ。高松平野は讃岐山地から源を発する香東川、春日川、新川などの主要河川の営力によって形成された扇状地性の沖積平野である。しかし、東部の春日川、新川の流域には、扇状地の発達が見られず、小規模な自然堤防性の微高地が点在する氾濫平野が広がる。本遺跡が立地する東山崎町付近は、古川、春日川、吉田川、新川が合流・近接するいわば扇の要部分にあたり、後世に治水のため激しく改変・分離されたといわれている。時期は不明であるが、新川の旧流路は久米山の西端から西に流れ、春日川と合流して海に注いでいた（古高松郷土史）。

近世以前、屋島は独立した島であり、海岸線は現在より内陸側に大きく湾入した入江となっていた。この県内でも有数の大きい入江は「古・高松湾」と呼ばれているが、複数河川が流れ込み長い年月をかけて多くの土砂が運ばれることで遠浅海岸となっ

た。さらに近世期の塩田開発や干拓によって「古・高松湾」は消滅し、現在に至る。

高松平野のほぼ全域に、東に9～11°傾いた条里型地割が広く分布することが知られている。春日川以東は、複数河川の氾濫と度重なる復旧によって、東西ないし南北一方向だけの一町間隔となっていて、典型的な条里型地割の方格となっていない。しかしながら、昔から夏季には水不足に陥りやすいことから、極めて多くの溜池が築造されている。「さかさ屋島」の映える新田町の久米池は、生駒藩時代に早魃救済のため、西嶋八兵衛によって築造されたと言われている。また、讃岐地方に普遍的な出水と呼ばれる自噴地下水脈を利用した湧水施設が盛んで、出水と溜池を併用した特徴的な配水網と水利慣行を伝えてきた。しかし近年は、香川用水（1975年完成）の通水によって、一帯は香川用水の受益範囲に取り込まれ、農業用水の確保の不安が払拭された反面、地元水源を核とした水利慣行が急速に消滅するとともに、溜池や出水の水源自体もその役割を失いつつある。



第1図 調査区配置図（1／5,000）

第2節 歴史的環境（第2図）

春日川以東の平野部が地形的にかなり安定し、集落等が形成されるようになるのは、中世から近世以降と言われている。

弥生時代・古墳時代 立石山山塊から延びる丘陵上、丘陵緩斜面ないし、低丘陵地一帯には弥生時代から古墳時代の遺跡が集中している。本遺跡北方向の久米山・茶臼山において、弥生時代前期の環濠状の溝と中期後半の住居跡が検出された諏訪神社遺跡、中期後半の墳墓である久米山遺跡群が調査された。中でも古墳時代前期に比定される高松市茶臼山古墳は、全長75mの前方後円墳である。県内唯一の出土例である碧玉製鍬形石2点、船載画文帯神獸鏡1点、鉄剣、大型の祭祀用鉄鏃等の副葬品が出土し、畿内の性格が指摘されている。立石山山塊の山腹から山裾には、後期に属する古墳が多数分布する。複室構造を持つ小山古墳や、天井石1枚の石で架構した山下古墳、県下唯一の石棚を有する久本古墳、T字形の横穴式石室を持った瀧本神社古墳といった単体で所在する特徴的な巨石墳と、長尾古墳群、岡山古墳群、平尾古墳群といった中小規模の横穴式石室墳から構成される古墳群が点在する。この他にも数多くの古墳の存在が知られるが、調査例が少なく実態不明なものが多い。

春日川以西の六条・上所遺跡では、古墳時代の住居跡から「韓式土器」が出土している。

古代 古代讃岐国では、河川を主な単位として南北に長い郡ができ、当該地は山田郡本山（毛止夜方）郷に属していた。律令体制が完成を迎えた8世紀頃の山田郡には、東大寺封戸、川原寺領田、法隆寺荘倉、長屋王家（北宮）封戸が定められ、新田町の山下廃寺や7世紀代の創建が伝えられる宝寿寺（前田廃寺）など多数の寺院や王族の封戸・荘園が設けられていた。

『日本書紀』に記載されている讃岐国山田郡屋嶋城の存在が知られており、近年の調査によって朝鮮半島に系譜を辿ることができる懸門や甕城といった施設が発見されている。また平安時代末、都落ちした平氏が屋島に入り居を構え、源平合戦の舞台にもなったことは『平家物語』に詳しい。

新川以東の扇状地に所在する前田東・中村遺跡一帯は、『和名抄』にも記される山田郡11郷の一つ「宮処郷」にあたり、古代後半（9世紀後半から10世紀）の大型建物と「祓所」が検出され、山田郡の郡

衙と推定されている。

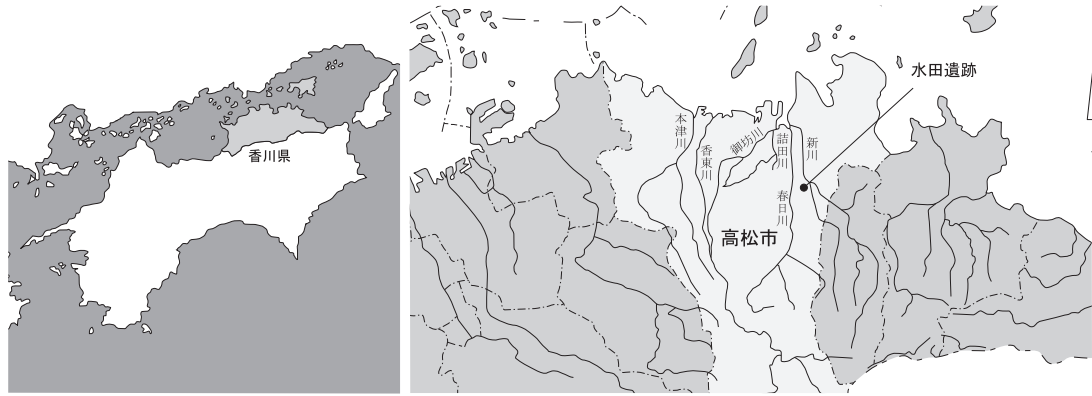
中世 鎌倉時代には、『秋山家記』において香川県西部高瀬郷（現在の三豊市高瀬町・三野町）の地頭であった秋山氏が「飛び地」として「水田」を所領していたことが記されている。応仁の乱の頃、「寒川藤右衛門尉貞光」に秋山禰法師の「押妨」「所務緩怠」が訴えられ、結果的には罪が確定し西讃岐高瀬郷内の三分の一の替地として東讃岐の「水田」内三分の二を寒川氏が「掠め給わる」ということになった。「水田」は、西讃の秋山氏にとって飛び地であったが、存亡にかかわるほど重要な所領であったことが推測される。

南北朝期建武2（1335）年には建武新政により讃岐国に配された舟木頼重が、屋島の対岸に高松城（喜岡城）を築城するが、天正10（1582）年、秀吉の四国征伐時に落城している。戦国時代には、阿波三好氏と一族の紐組を強めた十河氏が、十河城を中心に讃岐支配の拠点とした。十河氏から分家した前田氏が前田城を築いている。春日川西岸では由良兼光が六条城に拠った（全讃史）。

同じ氾濫原に立地する春日川から新川にかけての範囲では、六条・上所遺跡、東山崎・水田遺跡、川南・西遺跡など、中世後半から近世初期頃の集落や田畑が調査された。

近世 天正16（1588）年に生駒親正により高松城が築城され、西嶋八兵衛による香東川の付け替えや木太町から新田町にかけての干拓等を大規模に行っている。その後、高松藩主となった松平頼重も干拓や治水、新田開発に取り組み、屋島とその後背地の陸地化が進んだ。

自然環境の変化によって、屋島とその後背地である「古・高松湾」が埋没した結果、流通拠点が西の野原に移動した。それに伴って「高松」という地名が屋島周辺から野原へ移り、現在の高松（旧野原）が次の時代の中心となった。これを背景として、内陸交通では、玉藻城外堀に架けられた常盤橋を起点とした讃岐五街道（丸亀街道、金毘羅街道、仏生山・塩江街道、長尾街道、志度街道）が、中世の連絡道を原型にしながら整備された。



- | | | | |
|-------------------------------|-------------|-----------|---------------------------|
| 1 水田遺跡（第2次調査） | 8 宝寿寺跡 | 17 久米山遺跡群 | 26 新田・本村遺跡 |
| 2 水田遺跡 | 9 平尾遺跡 | 18 久米池南遺跡 | 27 小山・南谷遺跡
（平成6・7年度調査） |
| 3 東山崎・水田遺跡
（昭和63・平成10年度調査） | 10 前田城跡 | 19 久米池遺跡 | 28 小山・南谷遺跡
（平成5年度調査） |
| 4 東山崎・水田遺跡
（平成30年度調査） | 11 岡崎神社古墳 | 20 久本古墳 | 29 川南・西遺跡 |
| 5 六条・上所遺跡 | 12 新池遺跡 | 21 山下廃寺 | 30 川南・東遺跡 |
| 6 六条城跡 | 13 瀧本神社古墳 | 22 山下古墳 | 31 東谷池遺跡 |
| 7 前田東・中村遺跡 | 14 川添浄水場遺跡 | 23 岡山古墳群 | 32 久米石清水八幡宮 |
| | 15 高松市茶白山古墳 | 24 小山古墳 | |
| | 16 諏訪神社遺跡 | 25 石塚古墳 | |

第2図 周辺の遺跡（1/25,000）

第三章 調査成果

第1節 発掘調査の方法

a 調査区の設定と掘削方法（第3図）

調査区は、事業地内にある市道を挟んで北側を第1調査区、南側を第2調査区とし、第1調査区から調査を実施した。

掘削方法は、遺構面まで重機で掘削し、その後、人力で遺構の検出と掘削を行った。

b 図化作業・遺構番号・遺物の取り上げ

遺構図面は、国土座標を用いて手測りで作成した。水準点は平成26年度に本市が実施した水田遺跡1次調査で設置した水準を、調査担当者が直接水準で移動して用いた。

遺構番号は、第1調査区は検出した順番に1から順の数字を与え、第2調査区は30から順に数字を与えた。

遺物は、主に土層単位と遺構単位で取り上げた。

第2節 発掘調査の成果

(1) 基本層序と遺構面

第1調査区では、0.6～1.3mが盛土と床土で、床土除去後、第1遺構面となる。第1面である暗灰黄粗砂混じりシルトを除去後、オリーブ褐粗砂混じりシルト層上面が第2遺構面である。

第2調査区では、0.50～0.56mの盛土、暗灰黄細砂混じりシルトが堆積、遺物包含層である灰黄褐粗砂～細砂混じりシルトと灰黄褐粗砂混じりシルトを除去後、第1面を検出した。下層確認のための断割りを行ったが、第1調査区で確認した第2面は確認できなかった。

(2) 遺構と遺物

a 第1調査区第1面の調査

SX01（第8～10図）

第1調査区南西側で検出した性格不明遺構である。不整形な形状を呈し、調査区外へと延びるため、全体の形状は不明である。水田遺跡第1次調査で検出した出水状の遺構と考えられる。

検出面の標高は約8.3m、最大長約2.8m、最大幅約2.5m、深さ約0.8mを測る。

埋土は9層に分層でき、最上層が暗灰黄粗砂～細礫混じりシルトと暗灰黄中粒砂～粗砂混じりシルト、

上層が黄灰細砂～中粒砂混じりシルト、中層が灰黄シルト混じり中粒砂～粗砂、黄灰シルト質中粒砂～粗砂、黄灰微細砂、下層が灰シルト混じり微細砂とにぶい黄粗砂～細礫である。

遺物は、最上層から土師質土器杯（1）、須恵器甕（2）、土師質土器足釜（3・4）が出土したほか、土師質土器杯、土師質土器皿、土師質土器甕、土師質土器足釜、土師質土器片、須恵器壺、須恵器片、黒色土器A類片、骨、弥生土器片が出土した。

下層から土師質土器杯（5～7）、土師質土器土鍋（8）、須恵器甕（9）、土師質土器足釜（10～14）、土師質土器甕（15）が出土した。このほか、図化できなかったが、下層から土師質土器皿、土師質土器足釜、土師質土器片、黒色土器A類、須恵器播鉢、須恵器片、サヌカイト剥片が出土した。

最下層から土師質土器片、黒色土器A類片、瓦器片？、須恵器片、弥生土器片が出土した。

出土遺物の年代から、13世紀後葉～14世紀前葉と考えられる。

SX27（第4・6・7・11図）

中央から南側で検出した性格不明遺構である。SX01に切られ、調査区外へと延びるため、全体の形状は不明である。SX01と同様の出水状遺構の一部と考えられる。

検出面の標高は約8.3m、最大長約10.3m、最大幅約7.5m、深さ約0.72mを測る。

SX01よりも北西側の肩の堆積は、4層に分層でき、上層が灰褐細砂混じりシルトと灰黄褐中粒砂～粗砂混じりシルト、下層が褐灰細砂～粗砂混じりシルトとにぶい黄シルト混じり微細砂である。

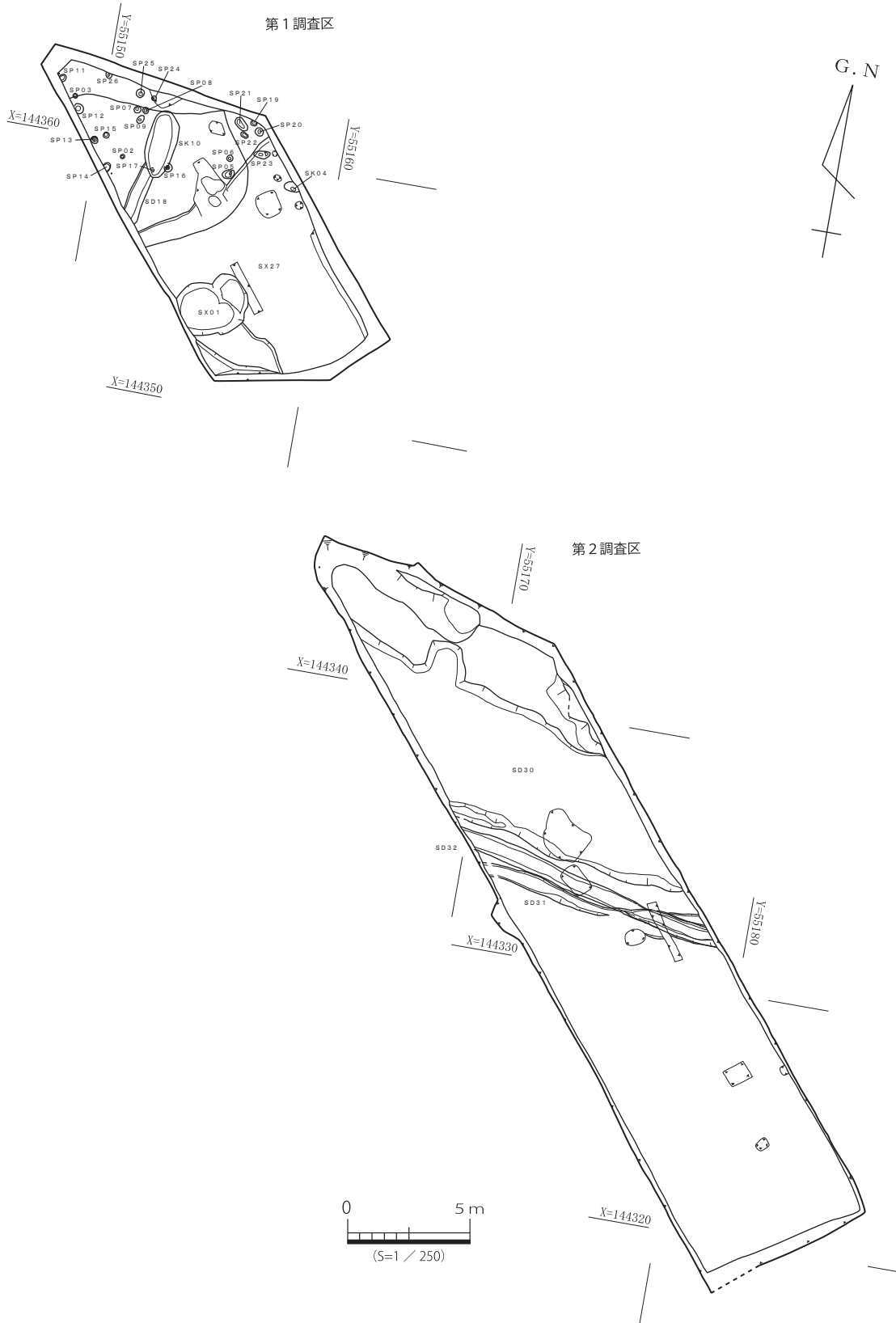
SX01より南西から南側の堆積は、15層に分層できる。最上層が暗灰黄細砂～中粒砂混じりシルトと褐灰細砂～中粒砂混じりシルトである。

上層が灰中粒砂～粗砂と褐灰微細砂～シルト、灰細砂混じりシルトである。ラミナが確認できることから、流水堆積と考えられる。

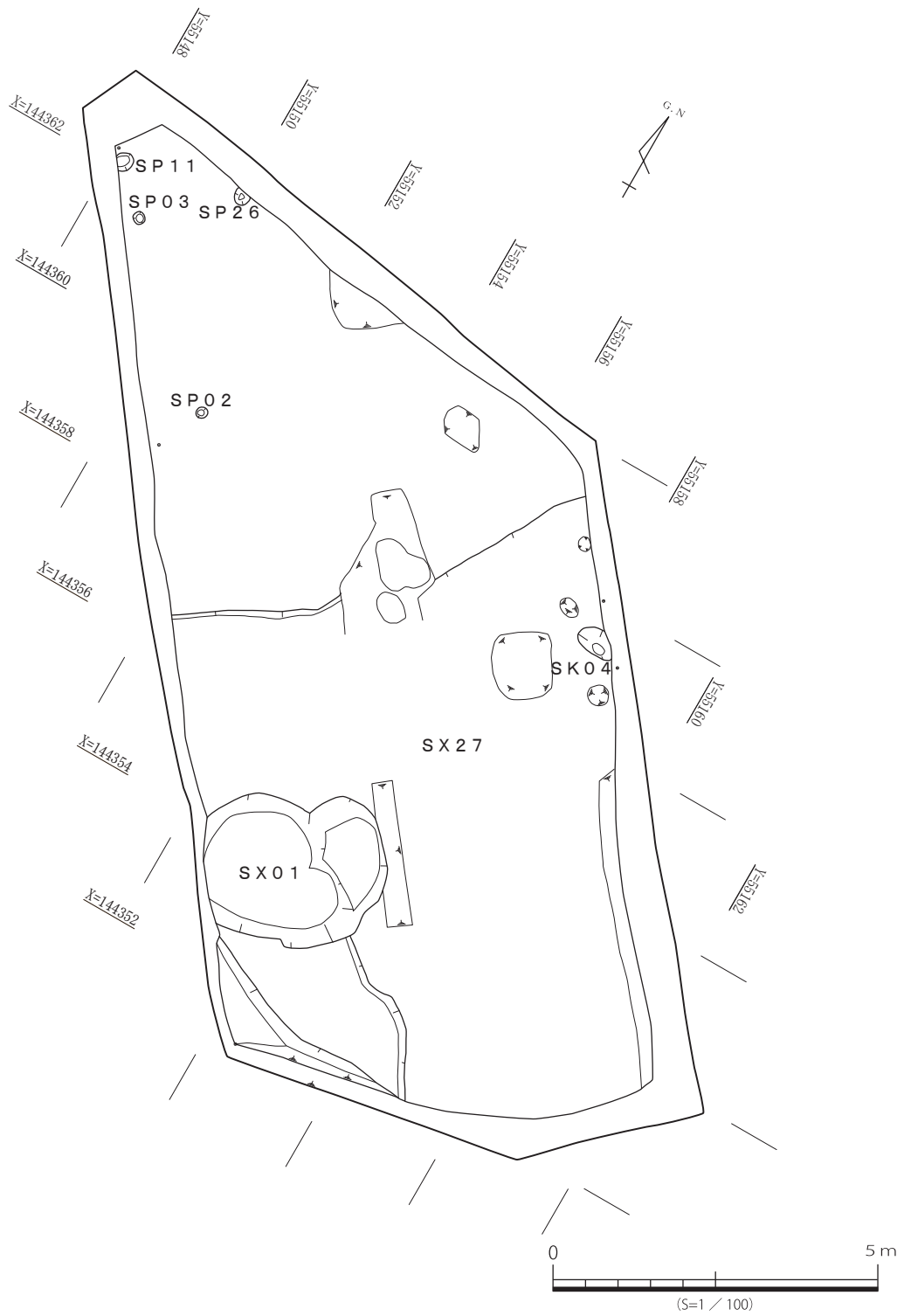
中層はにぶい橙中粒砂～粗砂と灰黄微細砂～細砂で、ラミナが確認できる。

下層が灰シルト混じり微細砂と灰オリーブ細砂混じりシルト、灰シルト～微細砂と灰シルト、灰オリーブシルト～微細砂、黄灰シルト～微細砂、にぶい黄シルト混じり微細砂、にぶい黄粗砂～中粒砂である。

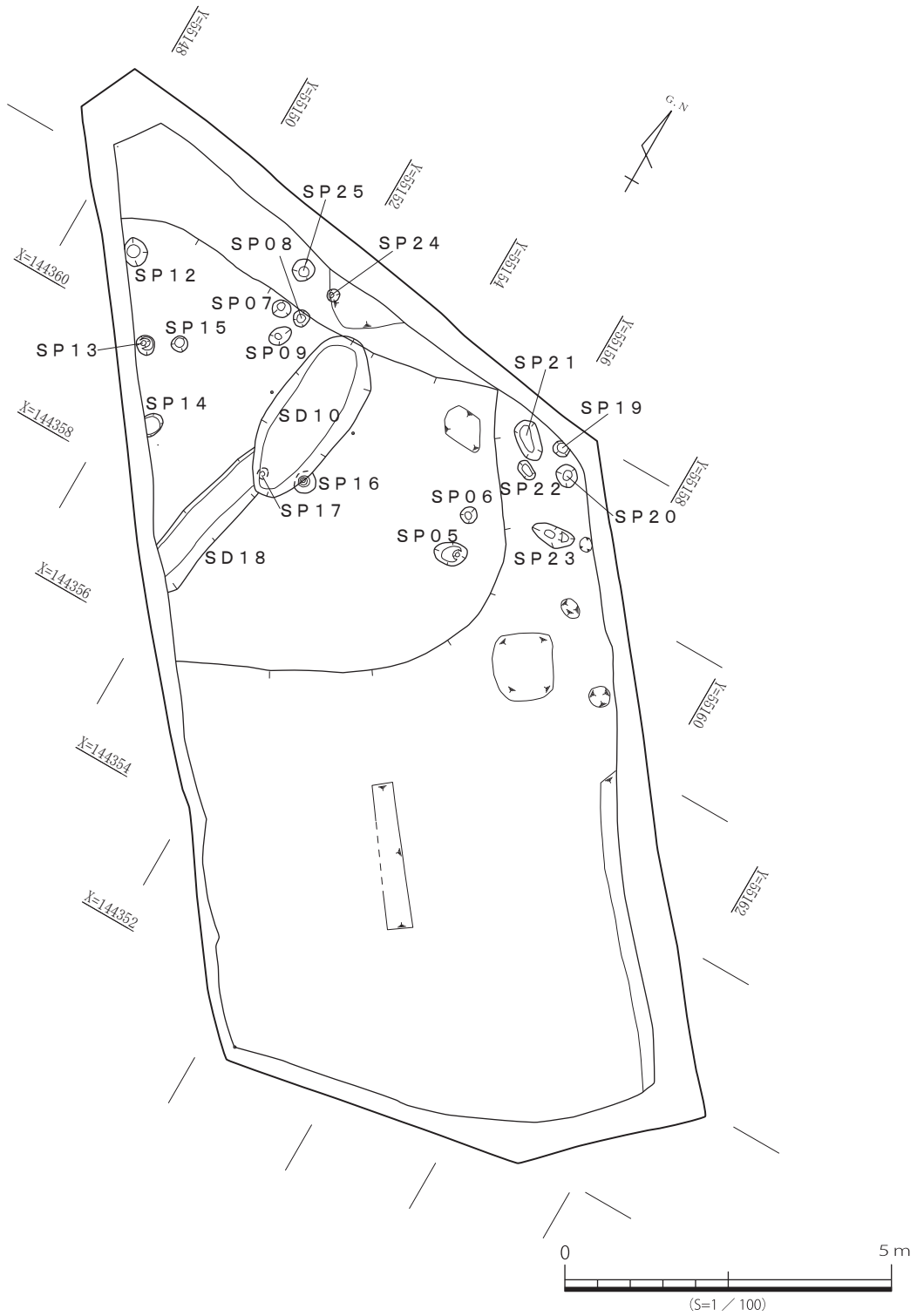
遺物は、北側の肩から土師質土器皿（16・



第3図 調査区配置図（1/250）



第4図 第1調査区 第1遺構面平面図 (1 / 100)



第5図 第1調査区 第2遺構面平面図（1/100）

17) が出土したほか、図化できなかったが土師質土器杯、黒色土器A類片、土師質土器片、須恵器片、鉄?片が出土した。南側肩から土師質土器片、黒色土器A類が出土した。

出土遺物の年代と遺構の切り合い関係から、13世紀後葉～14世紀前葉以前と考えられる。

SK04 (第12・13図)

第1調査区第1面中央東側で検出した楕円形の土坑である。一部は調査区外に延び、SX27を切る。

検出面の標高は約8.4m、最大長約0.65m以上、最大幅約0.40m、深さ約0.24mを測る。

埋土は単層で、暗灰黄粗砂混じりシルトである。

遺物は、土師質土器土鍋(20)が出土したほか、図化できなかったが土師質土器片が出土した。

出土遺物の年代と遺構の切り合い関係から、13世紀後葉～14世紀前葉以降と考えられる。

b 第1調査区第2面の調査

SD18 (第12図)

第1調査区西側中央やや北よりの第2面で検出した溝状の遺構である。SK10に切られる。

検出面の標高は、約8.22m、主軸方位N-15°-Eである。最大長約2.13m、最大幅約0.67m、深さ約0.17mを測る。断面形状は皿状を呈する。

埋土は単層で黄灰粗砂である。

遺物は図化できなかったが、土師質土器皿片、土師質土器片、須恵器片、微細剥離痕のある剥片が出土した。

遺物が細片であったため、詳細な時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から、13世紀後葉～14世紀前葉以前と考えられる。

SK10 (第12・13図)

第1調査区第2面、中央北側で検出した土坑である。SD18を切る。

検出面の標高は約8.4m、主軸方位N-1°-E、最大長約2.77m、最大幅約1.20m、深さ約0.24mを測る。断面形状は浅い椀状である。

埋土は2層に分層でき、上層が褐灰粗砂～細礫混じりシルト、下層が褐灰黄シルト混じり中粒砂～粗砂である。

遺物は、土師質土器杯(18・19)が出土した

ほか、図化できなかったが、土師質土器皿片、土師質土器片、須恵器片、二次加工のある剥片が出土した。

出土遺物と遺構の切り合い関係から、13世紀後葉～14世紀前葉以前と考えられる。

SB01 (第12・14図)

SB01は第1調査区北西隅で検出した掘立柱建物と考えられる遺構である。SP11～14で構成する。SP11は第1面で検出し、SP12～14は第2面で検出した。

出土遺物の年代から、13世紀後葉～14世紀前葉以前と考えられる。

SP11

SP11は調査区外へと延びるため、全体の形状は不明である。

検出面の標高は約8.3m、最大長約0.28m、深さ約0.22mを測る。断面形状はU字形である。埋土は単層で暗灰黄細砂～粗砂混じりシルトである。

遺物は、土師質土器足釜(25)が出土したほか、図化できなかったが土師質土器片が出土した。

SP12

SP12は円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.2m、直径約0.43m、深さ約0.26mを測る。断面形状はU字形である。

柱痕が確認でき、埋土は柱痕が暗灰黄粗砂～細砂混じりシルト、掘方が暗灰黄シルト混じり細砂である。

遺物は、掘方から土師質土器片が出土した。

SP13

SP13は円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.1m、直径約0.30m、深さ約0.32mを測る。断面形状はU字形である。

埋土は単層で、暗灰黄細砂～粗砂混じりシルトである。

遺物は図化できなかったが、土師質土器皿片、黒色土器A類片が出土した。

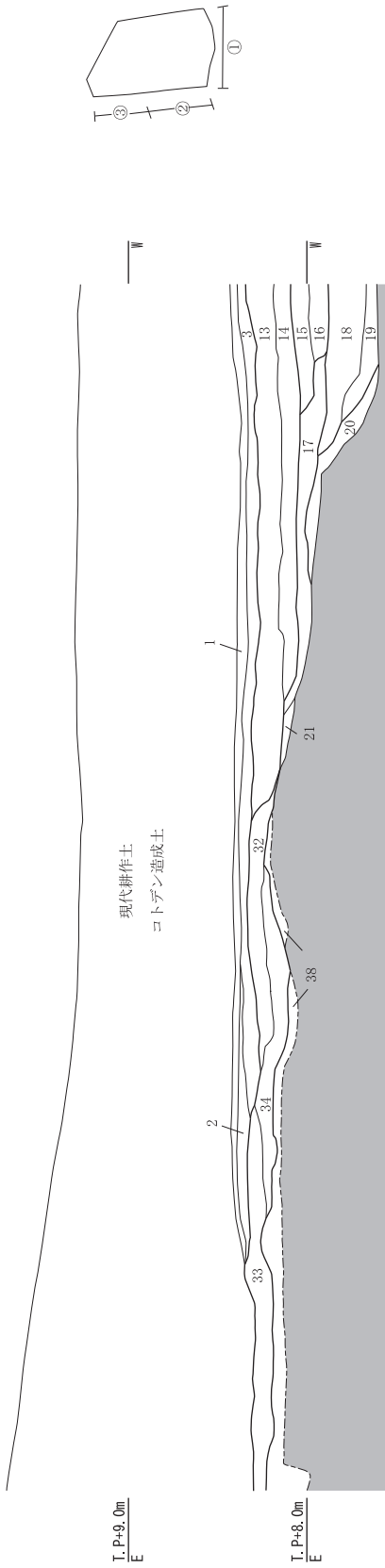
SP14

SP14は調査区外へと延びるため、全体の形状は不明である。

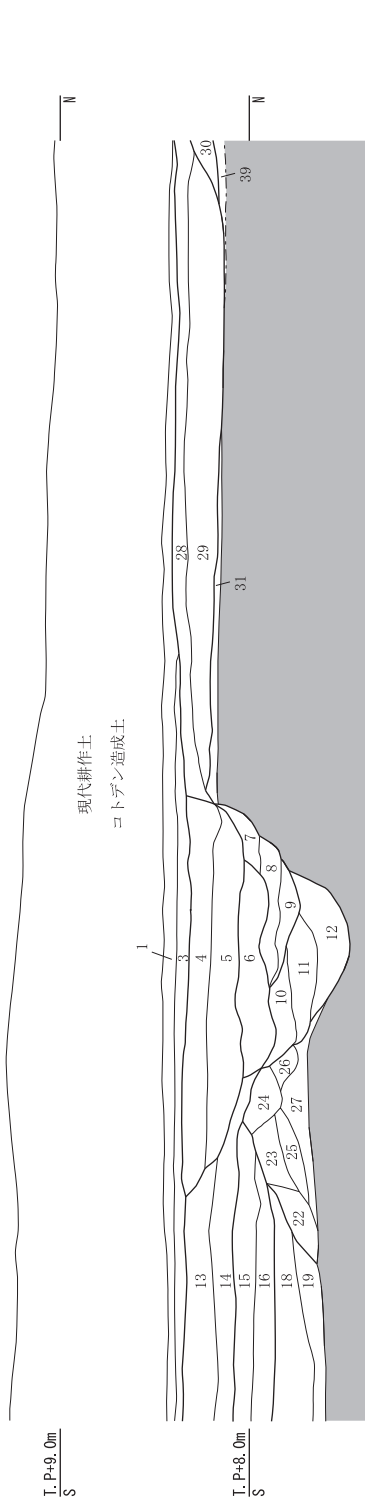
検出面の標高は約8.1m、直径約0.33m、深さ約0.25mを測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、暗灰黄細砂～粗砂混じりシルトで

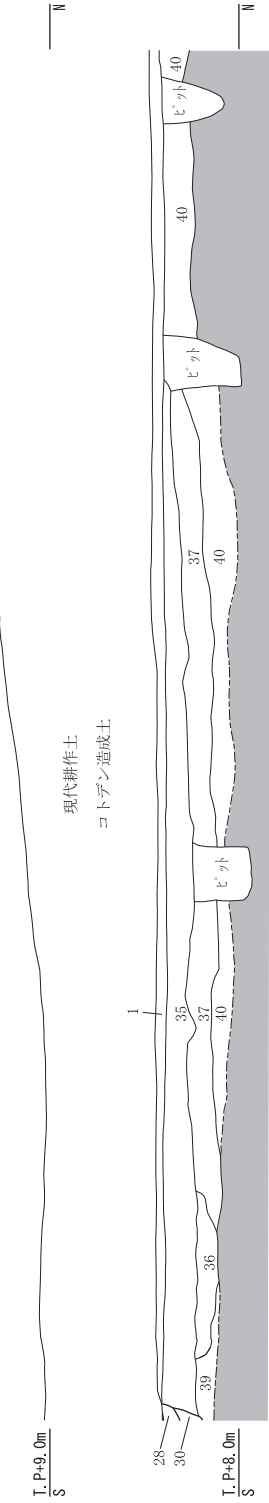
【土層断面①】



【土層断面②】



【土層断面③】



第6図 第1調査区 断面図①（1/40）

1	床土				
2	5YR3/2 オリーブ黒	粗砂混じり細砂			
3	10YR4/2 灰黄褐	粗砂混じりシルト	微細砂～シルト (ラミナ)		シルト混じり微細砂
4	2.5Y4/2 暗灰黄	粗砂～細礫混じりシルト	細砂混じり粗砂 (ラミナ)		細砂混じりシルト (Mn 含む)
5	2.5Y5/2 暗灰黄	中粒砂～粗砂混じりシルト	微細砂～粗砂 (ラミナ)		粗砂混じりシルト (Mn 含む)
6	2.5Y5/1 黄灰	細砂～中粒砂混じりシルト (細礫含む)	シルト混じり微細砂 (弱いラミナ)		粗砂混じりシルト
7	2.5Y6/2 灰黄	シルト混じり中粒砂～粗砂	細砂混じりシルト		粗砂
8	2.5Y6/1 黄灰	シルト質中粒砂～粗砂	シルト～微細砂 (ラミナ)		粗砂混じりシルト
9	2.5Y5/1 黄灰	微細砂	シルト～微細砂		シルト混じり微細砂 (ベース)
10	5Y5/1 灰	シルト混じり微細砂 (炭化物含む)	シルト～微細砂 (ラミナ)		シルト混じり粗砂～細礫
11	10YR5/1 灰	シルト混じり微細砂 (炭化物・細礫含む、弱いラミナ)	シルト混じり微細砂		粗砂
12	2.5Y6/2 にぶい黄	粗砂～細礫	シルト～中粒砂 (細礫混じる)		シルト混じり粗砂
13	2.5Y5/2 暗灰黄	細砂～中粒砂混じりシルト	細砂混じりシルト		粗砂
14	10YR5/1 褐灰	細砂～中粒砂混じりシルト (細礫含む)	中粒砂～粗砂混じりシルト		粗砂
15	5Y6/1 灰	中粒砂～粗砂	粗砂～細砂混じりシルト		粗砂
16	10YR5/1 褐灰				
17	10YR4/1 灰				
18	10YR6/3 にぶい橙				
19	2.5Y6/2 灰黄				
20	10YR5/1 灰				
21	5YR4/2 灰オリーブ				
22	7.5Y6/1 灰				
23	7.5Y6/1 灰				
24	7.5Y6/2 灰オリーブ				
25	2.5Y4/1 黄灰				
26	2.5Y6/3 にぶい黄				
27	2.5Y6/2 にぶい黄				
28	7.5Y4/2 褐				
29	10YR5/2 灰黄褐				
30	10YR5/1 褐灰				
31	2.5Y6/2 にぶい黄				
32	5YR5/2 灰オリーブ				
33	2.5Y4/4 オリーブ褐				
34	2.5Y4/4 オリーブ褐				
35	2.5Y5/2 暗灰黄				
36	2.5Y4/1 黄灰				
37	2.5Y4/3 オリーブ褐				
38	2.5Y5/3 黄褐				
39	10YR5/3 にぶい黄褐				
40	2.5Y4/3 オリーブ褐				

第7図 第1調査区 断面図②

ある。

遺物は図化できなかったが、弥生土器片が出土した。

SP05 (第5・14図)

第1調査区第2面、中央で検出したやや楕円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.2m、最大長約0.51m、最大幅約0.36m、深さ約0.27mを測る。

埋土は単層で、オリーブ褐粗砂混じりシルトである。

遺物は、土師質土器皿(26)、土師質土器鍋(27)が出土したほか、図化できなかったが土師質土器皿、土師質土器甕、土師質土器片が出土した。

SP07 (第5図)

第1調査区第2面中央北側で検出した円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.3m、直径約0.30m、深さ約0.26mを測る。

埋土は単層で、オリーブ褐粗砂混じりシルトである。

遺物は図化できなかったが、土師質土器片が出土した。

SP08 (第5図)

第1調査区第2面中央北側で検出した円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.3m、直径約0.26m、深さ約0.14mを測る。

埋土は単層で、オリーブ褐粗砂混じりシルトである。

遺物は図化できなかったが、土師質土器片と須恵器片が出土した。

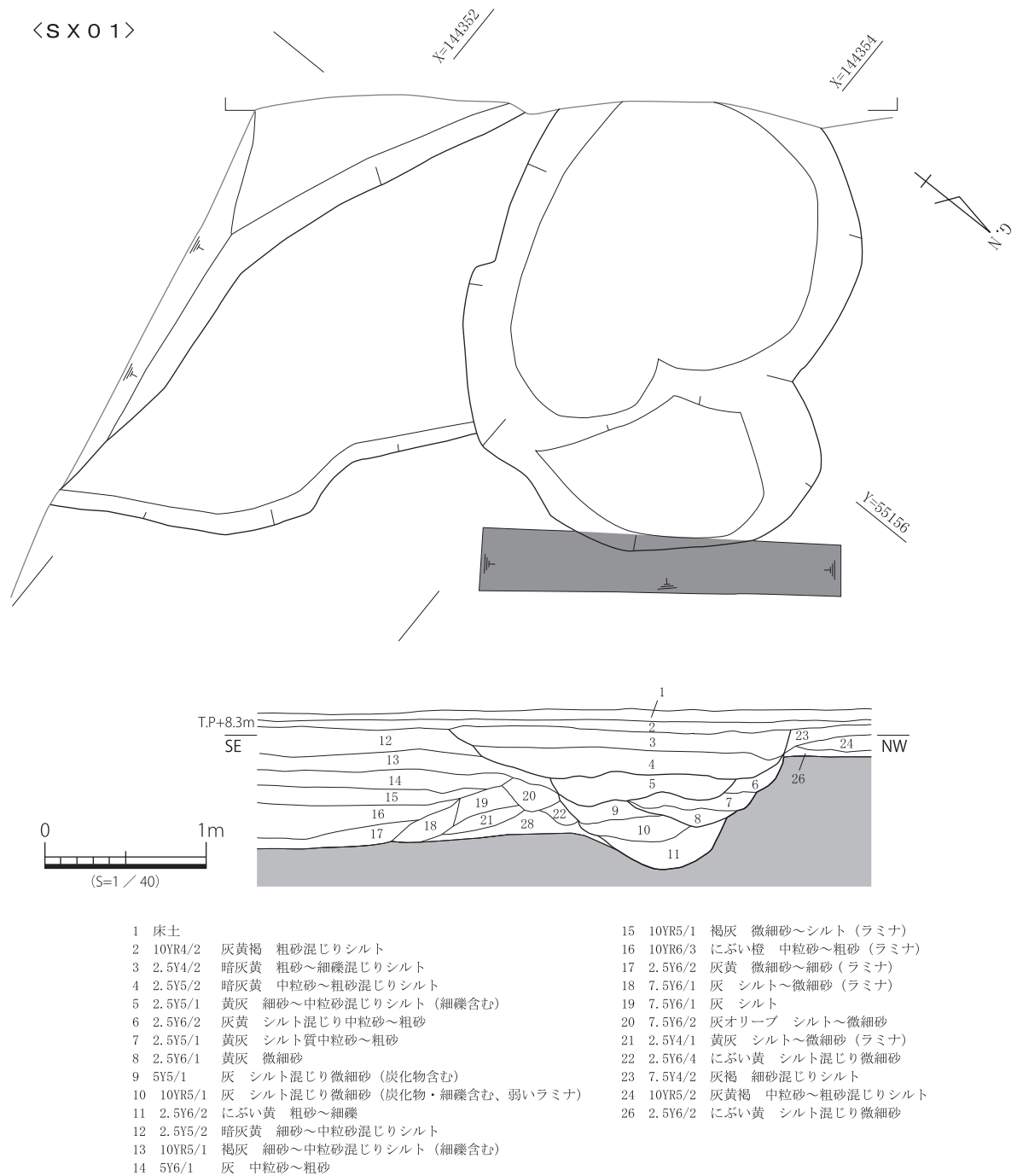
SP09 (第5図)

第1調査区第2面中央北側で検出した楕円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.3m、長径約0.36m、短径約0.25m、深さ約0.33mを測る。

埋土は単層で、オリーブ褐粗砂混じりシルトである。

遺物は図化できなかったが、土師質土器皿片、黒色土器A類片が出土した。



第8図 第1調査区 SX01平面・断面図 (1/40)

SP16 (第5図)

調査区中央第2面で検出したピットである。SK10に切られるため、全体の形状は不明であるが、円形を呈すると考えられる。

検出面の標高は約7.8m、長径約0.36m、深さ約0.36mを測る。

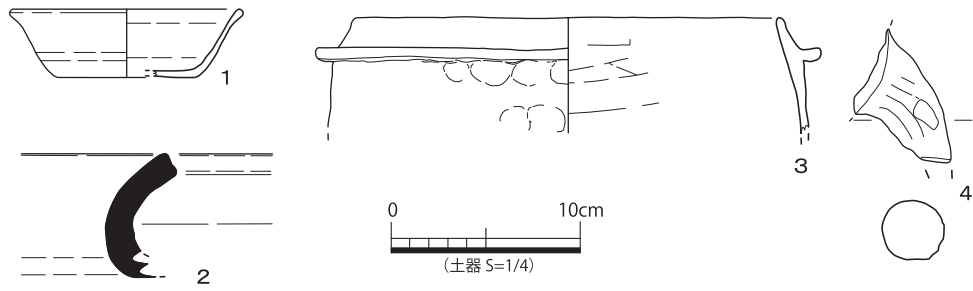
埋土は単層で、灰粗砂混じりシルトである。

遺物は図化できなかったが、土師質土器皿、土師質土器片が出土した。

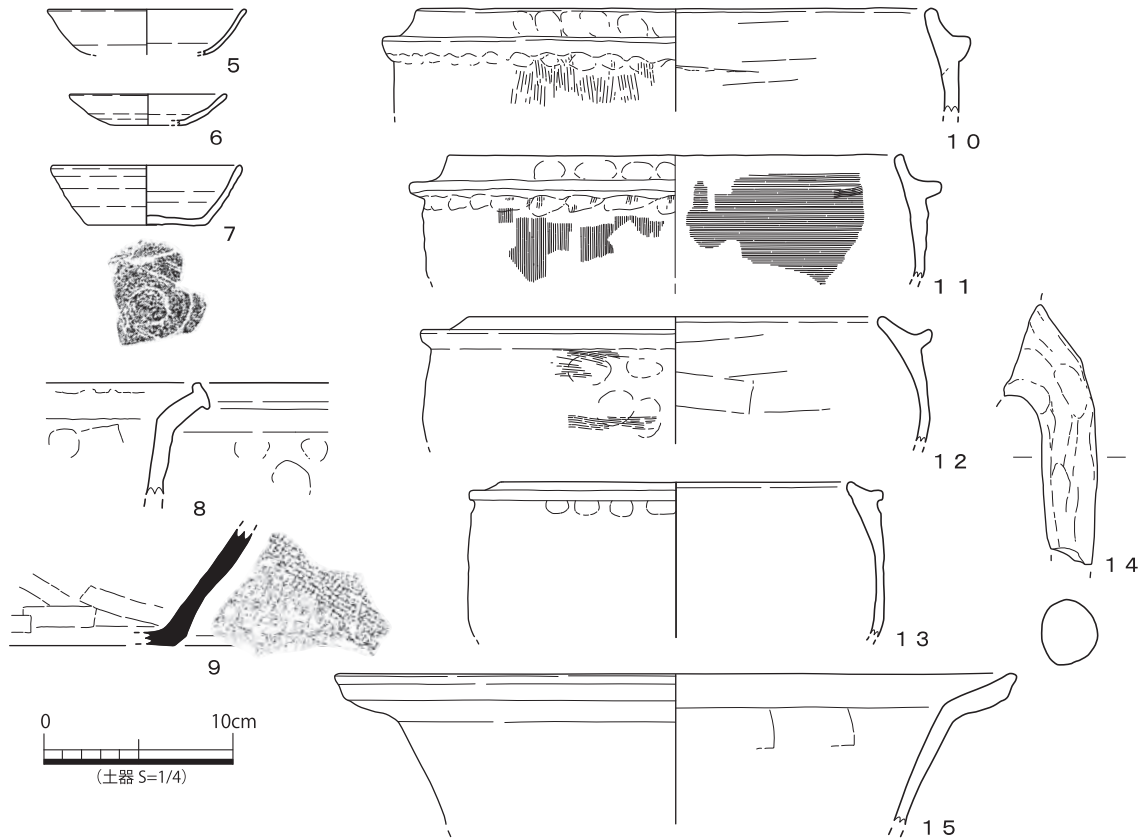
SP19 (第5図)

第1調査区第2面北東隅で検出したピットである。一部が調査区外となるが、円形を呈すると考えられる。

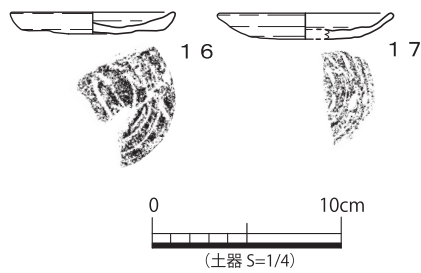
検出面の標高は約8.2m、長径約0.26m、深



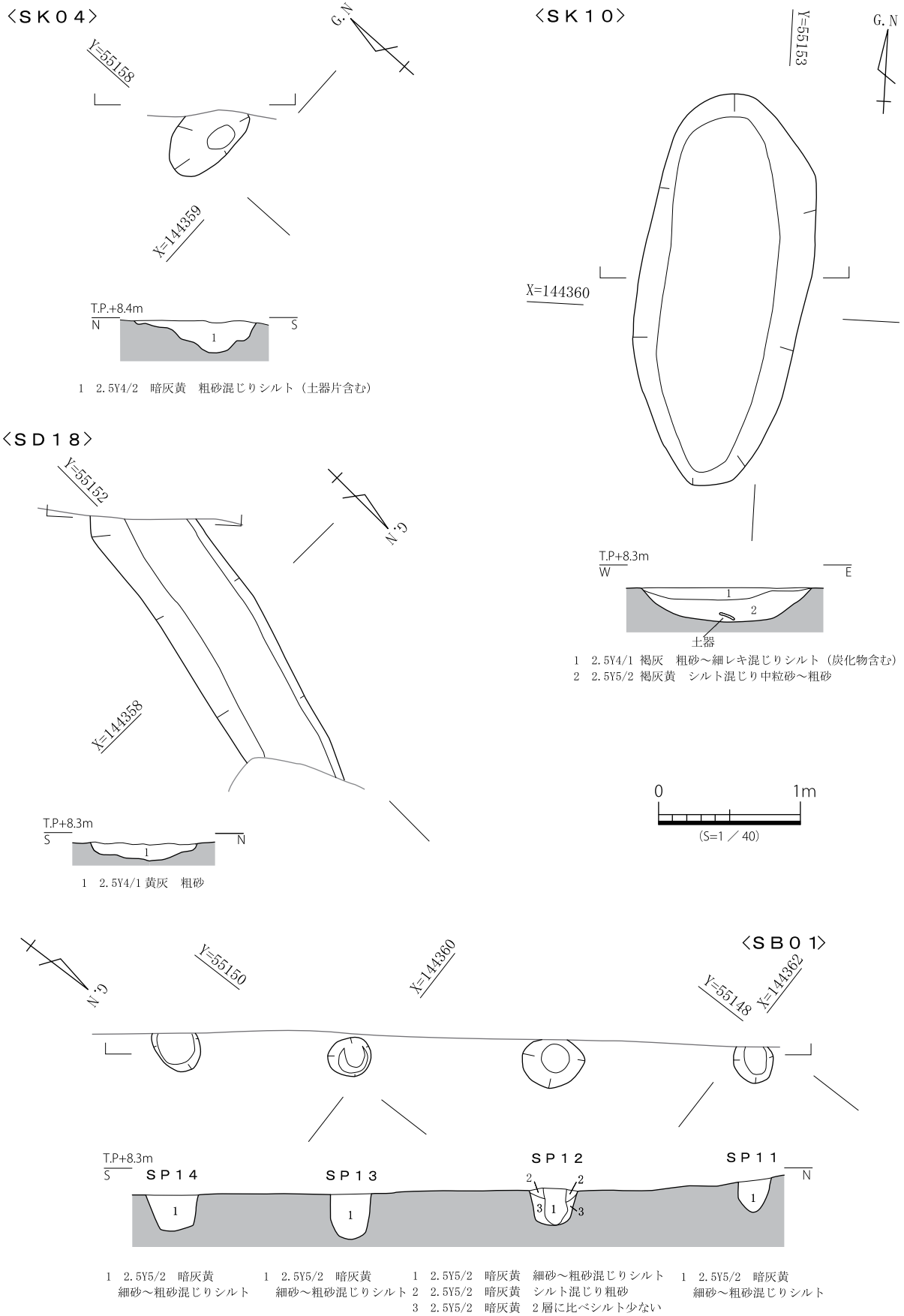
第9図 SX01最上層出土遺物(1/4)



第10図 SX01下層出土遺物(1/4)



第11図 SX27出土遺物(1/4)



第12図 第1調査区 SK04・SK10・SD18・SB01平面・断面図 (1/40)

さ約0.36mを測る。

埋土は単層で、黄灰粗砂混じり微細砂～シルトである。

遺物は図化できなかつたが、土師質土器皿、土師質土器杯片、土師質土器片、黒色土器A類片が出土した。

SP20 (第5・14図)

第1調査区第2面、北東隅で検出した円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.2m、直径約0.34m、深さ約0.20mを測る。

埋土は単層で、黄灰粗砂混じり微細砂～シルトである。

遺物は、土師質土器皿(24)が出土したほか、図化できなかつたが黒色土器A類片、須恵器片が出土した。

SP21 (第5・14図)

第1調査区第2面、北東隅で検出した、楕円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.2m、最大長約0.65m、最大幅約0.35m、深さ約0.29mを測る。

埋土は単層で、黄灰粗砂混じり微細砂～シルトである。

遺物は、土師質土器皿(21・22)が出土したほか、図化できなかつたが黒色土器A類・B類片、土師質土器片が出土した。

SP23 (第5・14図)

第1調査区第2面、北東側で検出した楕円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.2m、最大長約0.67m、最大幅約0.32m、深さ約0.34mを測る。

埋土は単層で、暗灰黄小礫混じり微細砂～シルトである。

遺物は、土師質土器皿(23)が出土したほか、図化できなかつたが、土師質土器片が出土した。

SP25 (第5図)

SP25は第1調査区第2面北端中央で検出した円形を呈するピットである。

検出面の標高は約8.3m、長径約0.33m、深さ約0.26mを測る。

埋土は単層で、暗灰黄小礫混じり微細砂～シルトである。

遺物は図化できなかつたが、土師質土器片が出土した。

遺構外出土遺物 (第15・16図)

このほか、第1調査区の遺物は、重機掘削で土師質土器足釜、土師質土器皿、燻瓦、須恵器片、土師質土器片、陶器片、土師質土器甕が出土した。

包含層から弥生土器(28)、石鏃(29)、不明鉄器(30)が出土したほか、図化できなかつたが土師質土器皿、土師質土器甕、土師質土器足釜、土師質土器片、黒色土器A類・B類片、瓦器?片、須恵器片、弥生土器(下川津B類)片、サヌカイト剥片が出土した。

攪乱から瓦質土器甕(31)、土師質土器皿、土師質土器片、黒色土器A類片、須恵器片が出土した。

遺構面精査中に土師質土器片、土師質土器羽釜片、土師質土器皿片、須恵器片、鉄滓が出土した。

C 第2調査区の調査

SD30 (第17～21図)

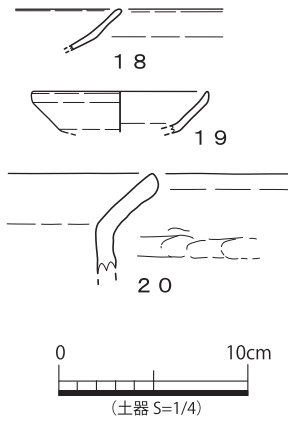
SD30は第2調査区北側で検出した、大型の溝である。調査区外へと延びるため、全体の形状は不明である。

検出面の標高は約8.1m、主軸方位N-72°-W、長さ約8.5mを検出し、幅約8.8m以上、深さ約0.97～1.14mを測る。断面形状は逆台形を呈する。

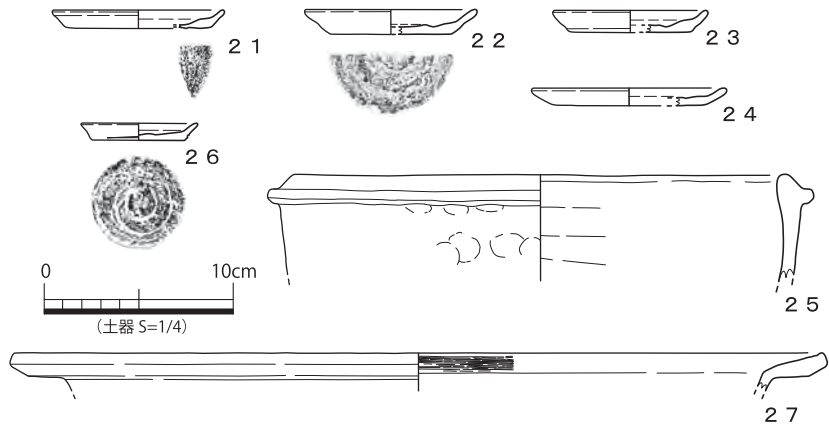
埋土は39層に分類できる。最上層は6層に分層でき、灰黄褐粗砂混じりシルトと暗褐粘質シルト、暗灰黄粗砂～細砂、灰黄褐粘質シルト、暗褐細砂である。

上層は13層に分層でき、灰黄褐シルトと灰黄褐極細砂、灰黄褐細砂、灰黄褐極細砂～細砂、灰黄褐粗砂混じりシルト、暗灰黄細砂、暗灰黄粗砂、暗灰黄粘質シルト、黒褐シルト～粘土、灰黄褐粗砂混じりシルトである。

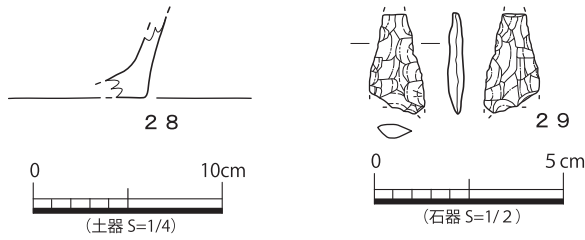
溝の北側の堆積は、9層に分層でき、上層が灰黄褐細砂～シルトとにぶい黄極細砂、灰黄褐粗砂、褐極粗砂、下層がにぶい黄極粗砂、暗オリーブ灰極粗砂、灰黄褐細砂～極粗砂、灰黄褐極粗砂である。この堆積層を肩として、上層の堆積層の溝が機能していたと考えられる。



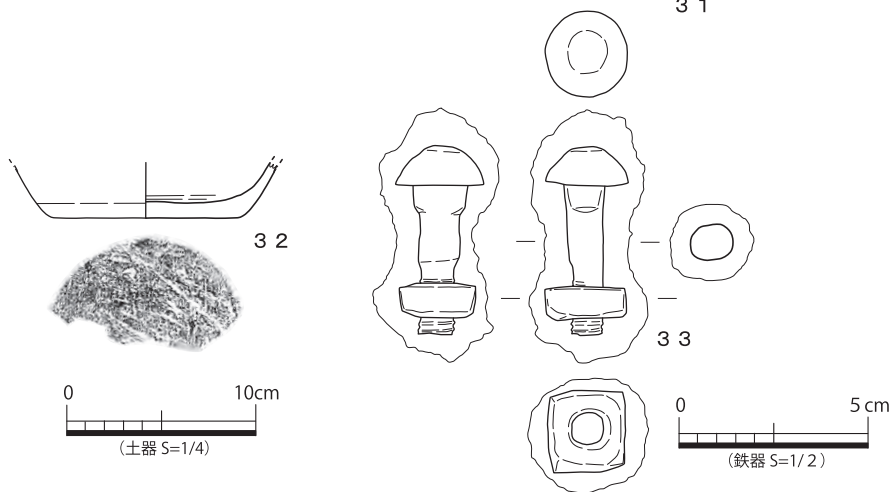
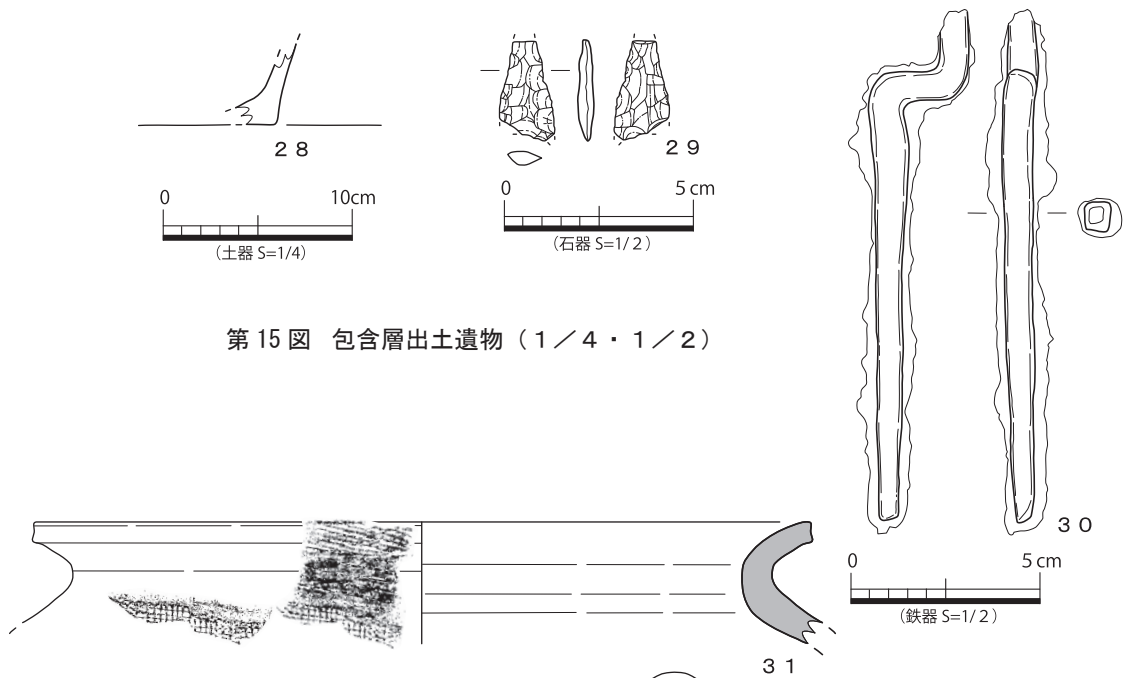
第13図 SK出土遺物（1/4）



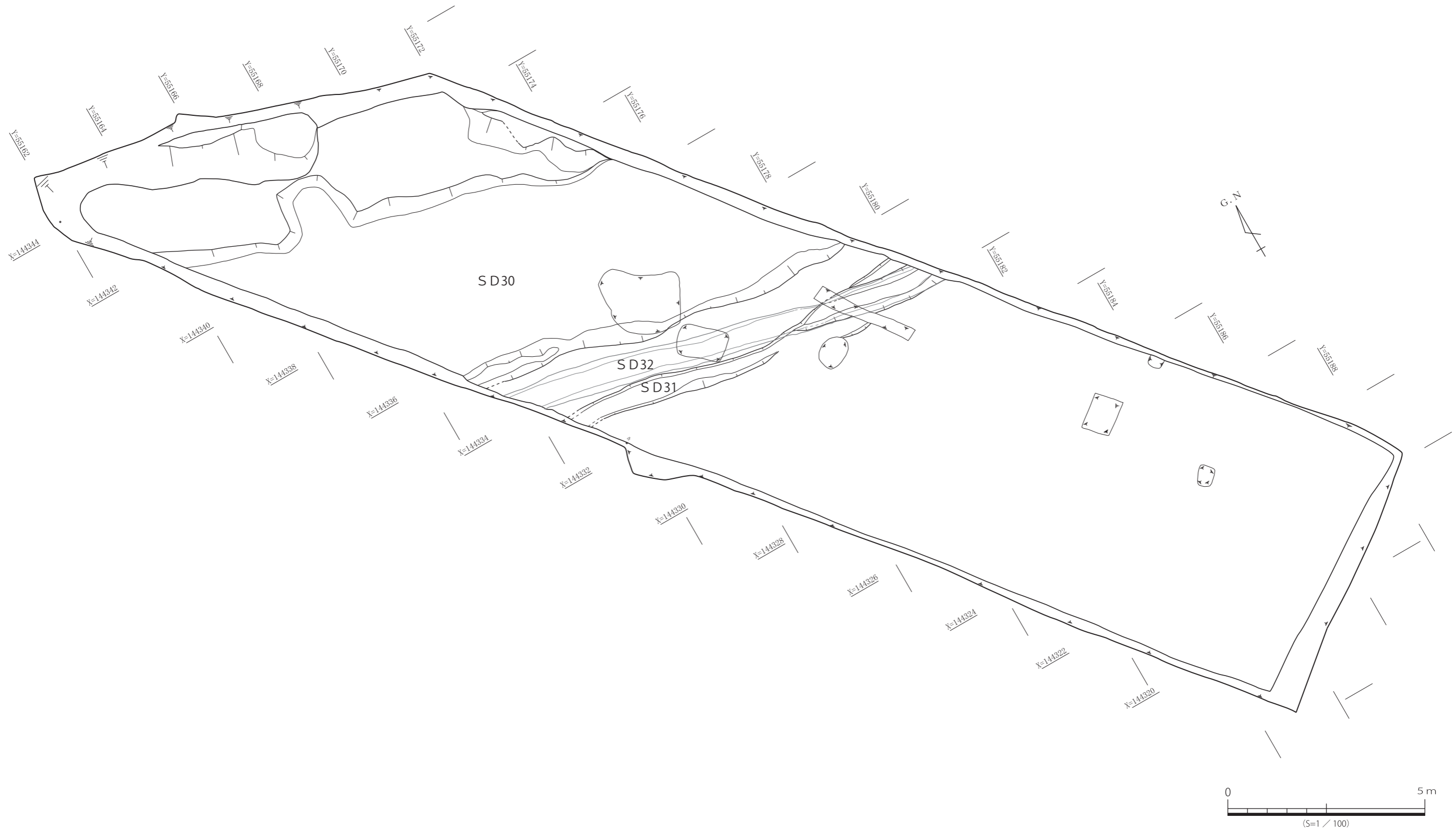
第14図 SP出土遺物（1/4）



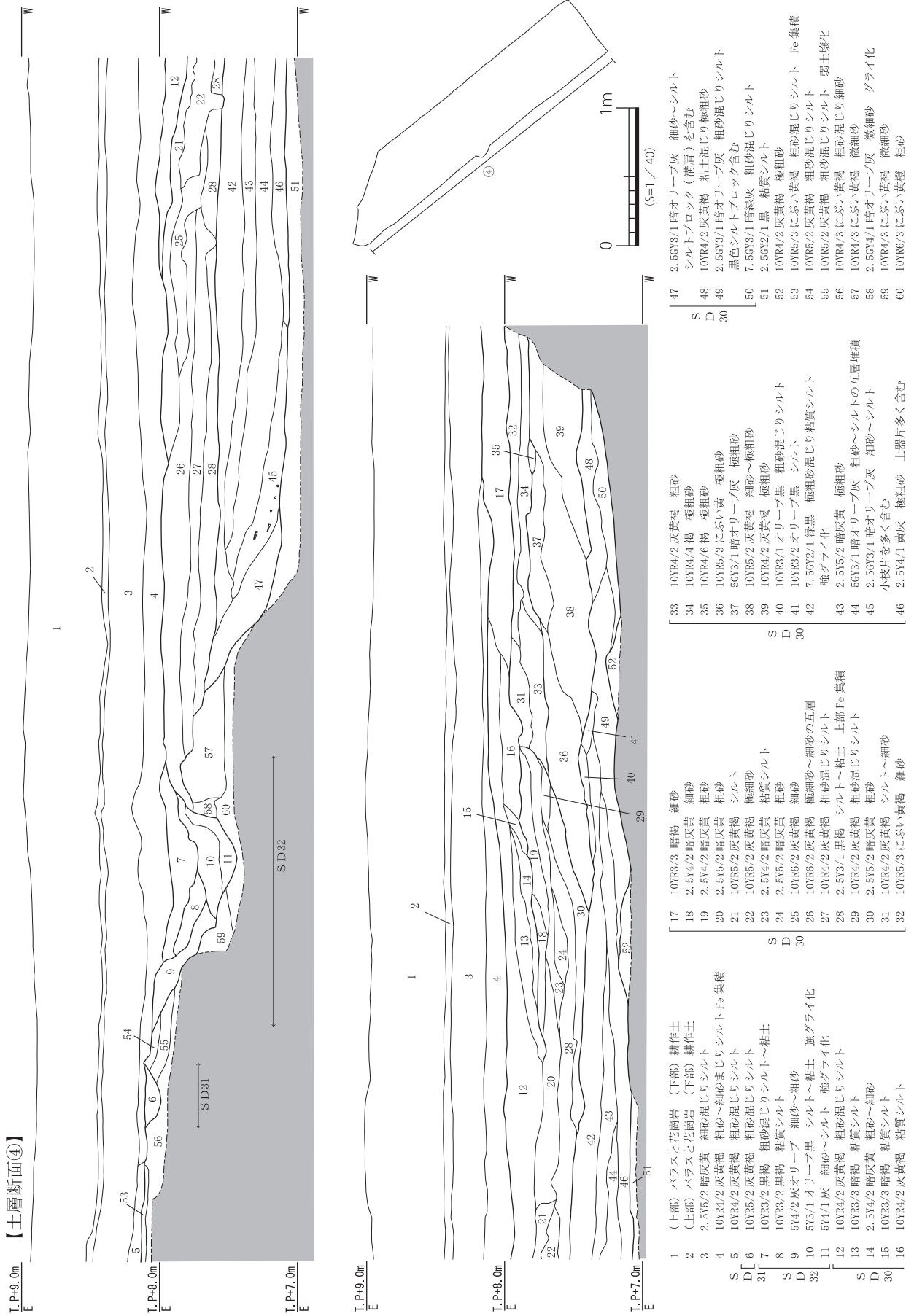
第15図 包含層出土遺物（1/4・1/2）



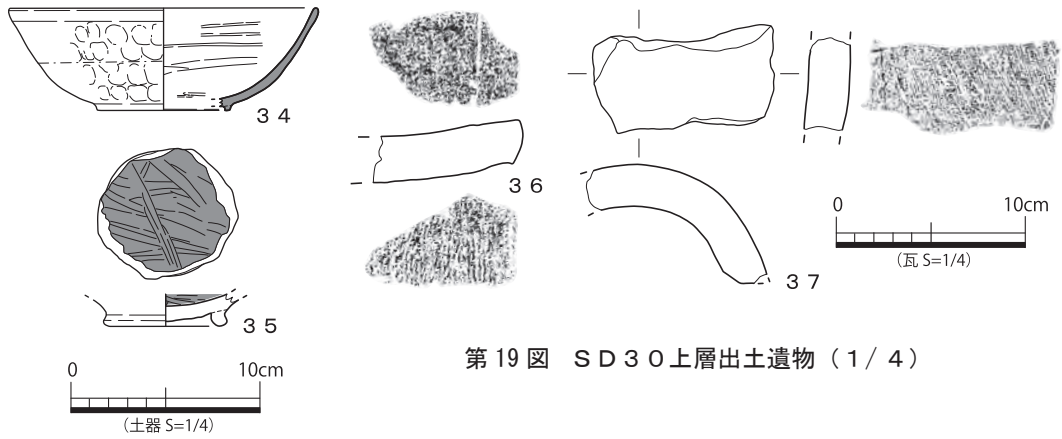
第16図 重機掘削・その他出土遺物（1/4・1/2）



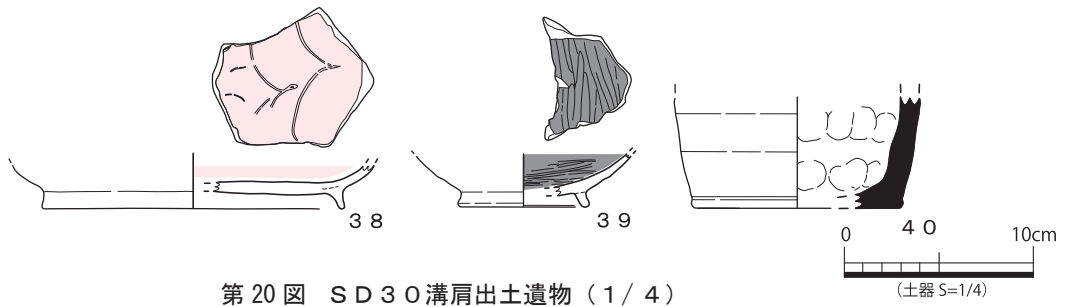
第17図 第2調査区 平面図 (1/100)



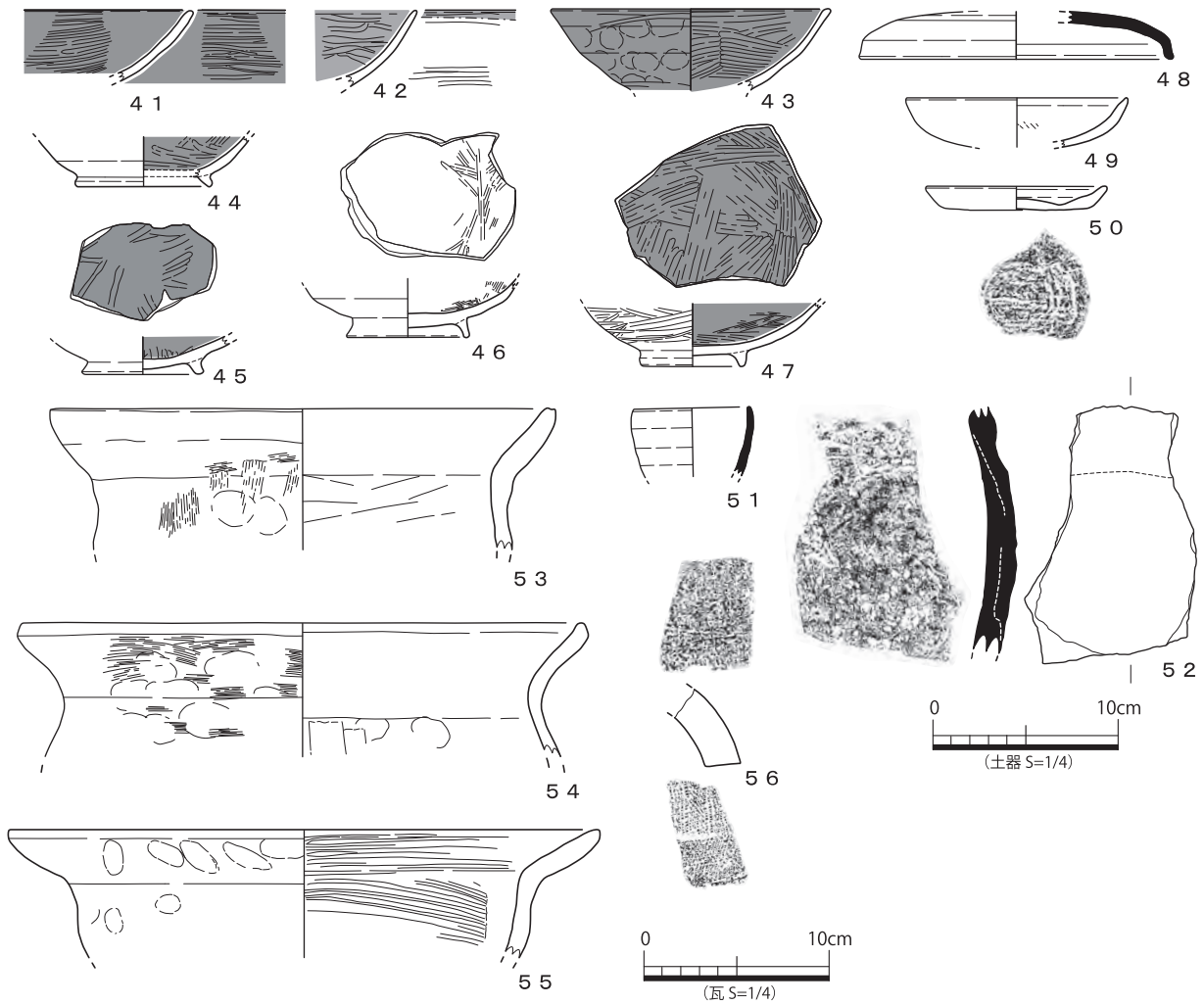
第 18 図 第 2 調査区 西隣断面図 (1 / 40)



第19図 SD30上層出土遺物（1/4）



第20図 SD30溝肩出土遺物（1/4）



第21図 SD30下層出土遺物（1/4）

第IV章 総括

第1節 検出遺構・遺物について

今回の調査で、第1調査区では2面の遺構面を、第2調査区では1面の遺構面を平面的に検出した。第1調査区の第1面は、出水状遺構であるSX01・27と土坑、ピットの遺構面で、第2調査区では、大規模な溝であるSD30と、比較的小規模な溝であるSD31・32の計3条の溝を確認した。

遺構は出水状遺構が13世紀後葉～14世紀前葉に埋没している。水田遺跡の第1次調査では、12世紀ごろの出水状遺構が確認されており、今回確認された遺構は、その後地下水脈の移動等により、新たに形成されたと考えられる。

第2調査区で検出した溝は11世紀中葉～12世紀前半に掘削され、12世紀後半～13世紀中葉には埋没して機能を失っている。遺構の埋土は洪水砂とシルトの堆積によって埋没しており、洪水と安定期を繰り返す不安定な状況であったと考えられる。

出土遺物は、中世段階の土器のほか、古代末に属する土器が一定量認められる。今回の調査区の北西側に位置する東山崎・水田遺跡において区画溝で囲まれた屋敷地が展開するのは、13世紀後半～16世紀前半ごろである。これに先行する古代末ごろの集落の存在を想定させるものである。

第2節 水田遺跡周辺の地形と集落の展開について

今回、第2調査区で検出したSD30・31・32は、現在の用水路に平行する状況で掘削されており、東側を流れる吉田川の方へと傾斜する。

調査地は現在の春日川と吉田川に挟まれた平野部の長尾街道よりも東側に位置し、新川水系春日川と新川、吉田川の氾濫原にあたる。調査区周辺の地形は、南西側の標高が高く、北東側に向けて低い地形である。

調査区の約200～500m西側に位置する東山崎・水田遺跡の調査事例では、南北方向の溝が複数条検出されており、東西方向の溝である水田遺跡とでは、差が生じている。第22図は、調査事例と現在の図から推定される水路の位置を示したものである。明確な条里地割が確認できる東山崎・水田遺跡に対し、水田遺跡は条里に沿った地割が確認できるものの、その地割は明確ではなく、また条里に沿わ

ない東西方向の水路が確認できる。この状況から、今回の調査で検出した溝は、西側の微高地上に位置する集落の治水・排水のために、地形を利用して掘削された可能性が想定できる。

またこれらの溝を埋めている埋土は粗砂が大半を占める。埋土の供給源を考えると、遠方に位置する大規模な河川の氾濫による土砂の供給よりも、近隣に位置する小規模な河川の氾濫による土砂の供給の可能性が高く、洪水時に調査区の周辺の旧河道が破堤ないし水流がかなりの流速で流れた可能性が想定できる。

沖積平野であるこの地域の遺跡の発生と変遷を考えると、高松平野の主要な河川のみならず、小規模河川の動向や微地形、古環境についての資料を蓄積する必要があり、今後、周辺での調査成果の蓄積と検討が望まれる。

第IV章 総括

第1節 検出遺構・遺物について

今回の調査で、第1調査区では2面の遺構面を、第2調査区では1面の遺構面を平面的に検出した。第1調査区の第1面は、出水状遺構であるSX01・27と土坑、ピットの遺構面で、第2調査区では、大規模な溝であるSD30と、比較的小規模な溝であるSD31・32の計3条の溝を確認した。

遺構は出水状遺構が13世紀後葉～14世紀前葉に埋没している。水田遺跡の第1次調査では、12世紀ごろの出水状遺構が確認されており、今回確認された遺構は、その後地下水脈の移動等により、新たに形成されたと考えられる。

第2調査区で検出した溝は11世紀中葉～12世紀前半に掘削され、12世紀後半～13世紀中葉には埋没して機能を失っている。遺構の埋土は洪水砂とシルトの堆積によって埋没しており、洪水と安定期を繰り返す不安定な状況であったと考えられる。

出土遺物は、中世段階の土器のほかに、古代末に属する土器が一定量認められる。今回の調査区の北西側に位置する東山崎・水田遺跡において区画溝で囲まれた屋敷地が展開するのは、13世紀後半～16世紀前半ごろである。これに先行する古代末ごろの集落の存在を想定させるものである。

第2節 水田遺跡周辺の地形と集落の展開について

今回、第2調査区で検出したSD30・31・32は、現在の用水路に平行する状況で掘削されており、東側を流れる吉田川の方へと傾斜する。

調査地は現在の春日川と吉田川に挟まれた平野部の長尾街道よりも東側に位置し、新川水系春日川と新川、吉田川の氾濫原にあたる。調査区周辺の地形は、南西側の標高が高く、北東側に向けて低い地形である。

調査区の約200～500m西側に位置する東山崎・水田遺跡の調査事例では、南北方向の溝が複数条検出されており、東西方向の溝である水田遺跡とでは、差が生じている。第22図は、調査事例と現在の図から推定される水路の位置を示したものである。明確な条里地割が確認できる東山崎・水田遺跡に対し、水田遺跡は条里に沿った地割が確認できるものの、その地割は明確ではなく、また条里に沿わ

ない東西方向の水路が確認できる。この状況から、今回の調査で検出した溝は、西側の微高地上に位置する集落の治水・排水のために、地形を利用して掘削された可能性が想定できる。

またこれらの溝を埋めている埋土は粗砂が大半を占める。埋土の供給源を考えると、遠方に位置する大規模な河川の氾濫による土砂の供給よりも、近隣に位置する小規模な河川の氾濫による土砂の供給の可能性が高く、洪水時に調査区の周辺の旧河道が破堤ないし水流がかなりの流速で流れた可能性が想定できる。

沖積平野であるこの地域の遺跡の発生と変遷を考えるうえで、高松平野の主要な河川のみならず、小規模河川の動向や微地形、古環境についての資料を蓄積する必要があり、今後、周辺での調査成果の蓄積と検討が望まれる。



第22図 水田遺跡周辺の地形と集落の展開

第1表 遺物観察表①

単位:cm (推定値)[残存値]

報告書 番号	出土遺構	種別 器種 (部位)	口径 底径 器高	手法の特徴	色調	胎土 焼成	備考
1	SX01 最上層	土師質土器 杯	(12.0) (7.2) 3.6	[外]回転テ, 底部ヘラ切り, テ [内]回転テ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]7.5YR7/6橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
2	SX01 最上層	須恵器 甕 (口縁)	— — [6.5]	[外]テ [内]テ	[外]N6/灰 [内]N6/灰	普:1mm以下の石英・長石・ 黒色粒を含む 良	
3	SX01 最上層	土師質土器 足釜 (口縁)	(22.4) — [6.1]	[外]テ, 指オエ [内]板テ	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普:0.5~2mmの石英・長石を 含む 良	煤付着
4	SX01 最上層	土師器 足釜 (脚部)	— — [7.1]	[外]テ, 指オエ [内]	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	
5	SX01	土師質土器 杯	(10.4) — (2.4)	[外]回転テ [内]回転テ	[外]10YR6/3にぶい黄橙 [内]10YR7/4にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒・金雲母を 含む	
6	SX01	土師質土器 杯	(8.2) (4.2) [1.7]	[外]回転テ, マツ [内]回転テ	[外]5YR6/6橙 [内]5YR6/6橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
7	SX01	土師質土器 杯	(10.0) (6.4) 3.2	[外]回転テ, 回転ヘラ切 り, 貼付高台 [内]回転テ	[外]10YR7/3にぶい黄橙 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
8	SX01	土師質土器 土鍋 (口縁)	— — 5.8	[外]テ [内]テ, 板テ	[外]7.5YR7/3にぶい橙 [内]7.5YR7/3にぶい橙	普:2mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	
9	SX01	須恵器 甕 (底部)	— (32.4) [6.1]	[外]格子タテ, 板テ後 テ [内]板テ後テ	[外]N6/灰 [内]N7/灰白	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
10	SX01	土師質土器 足釜 (口縁)	(27.0) — [5.5]	[外]指オエ, ハ, 爪形圧痕 [内]板テ	[外]7.5YR6/3にぶい褐 [内]5YR6/6橙	普:3mm以下の石英・長石を 含む 良	
11	SX01	土師質土器 足釜 (口縁)	(24.2) — [6.5]	[外]縦ハ, 指オエ, テ [内]横ハ, テ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]10YR6/3にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 砂粒を含む 良	
12	SX01	土師質土器 足釜 (口縁)	(22.0) — [6.6]	[外]ヨコテ, 指オエ, ハ, マ ツ [内]板テ, ヨコテ	[外]10YR5/4にぶい黄褐 [内]7.5YR5/4にぶい褐	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	外面に煤化あり
13	SX01	土師質土器 足釜 (口縁)	(18.6) — 8.2	[外]テ, 指オエ [内]テ	[外]10YR8/2灰白 [内]7.5YR7/4にぶい橙	普:2mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	
14	SX01	土師質土器 足釜 (脚部)	— — [13.75]	[外]テ [内]テ	[外]5YR5/6明赤褐 [内]5YR6/6橙	普:2mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	部分的に煤化あり
15	SX01	土師質土器 甕	(36.0) — (7.9)	[外]テ [内]テ, 板テ	[外]7.5YR4/1褐灰 [内]7.5YR6/4にぶい橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	
16	SX27 北側肩	土師質土器 皿	(8.6) (7.6) 1.15	[外]回転テ, 回転ヘラ切 り [内]回転テ	[外]2.5Y7/1灰白 [内]2.5Y6/2灰黄	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
17	SX27 北側肩	土師質土器 皿	(9.1) (6.0) [1.4]	[外]回転テ, 回転ヘラ切 り [内]回転テ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
18	SK10	土師質土器 杯 (口縁)	— — [2.15]	[外]回転テ, マツ [内]回転テ, マツ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]2.5Y8/2灰白	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
19	SK10	土師質土器 杯 (口縁)	(9.2) — [2.2]	[外]回転テ [内]回転テ	[外]7.5YR7/6橙 [内]2.5Y8/2灰白	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	
20	SK04	土師質土器 土鍋 (口縁)	— — [5.3]	[外]ヨコテ, マツ [内]ヨコテ	[外]7.5YR5/4にぶい褐 [内]7.5YR6/6橙	普:1mm以下の石英・長石・ 黒色粒を含む 良	外面に黒斑あり
21	SP21	土師質土器 皿	(9.0) (7.8) 1.0	[外]回転テ, 底部ヘラ切 り [内]回転テ	[外]2.5Y6/2灰黄 [内]2.5Y7/3浅黄	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒・金雲母を 含む	
22	SP21	土師質土器 皿	(9.2) (6.2) 1.3	[外]回転テ, 底部回転ヘ ラ切り [内]回転テ	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]2.5Y8/2灰白	普:1mm以下の赤色粒・白色 粒を含む 良	
23	SP23	土師質土器 皿	(8.0) (6.5) [1.17]	[外]回転テ [内]回転テ, ヘラ切り	[外]10YR7/4にぶい黄橙 [内]10YR7/4にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	

第2表 遺物観察表②

単位:cm (推定値)[残存値]

報告書 番号	出土遺構	種別 器種 (部位)	口径 底径 器高	手法の特徴	色調	胎土 焼成	備考
24	SP20	土師質土器 皿	(10.2) — [0.95]	[外]回転ナテ, マツ [内]回転ナテ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]10YR7/4にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒・金雲母を 含む	内面底部に煤 化?
25	SB01 - SP11	土師質土器 足釜 (口縁)	(26.4) — [5.7]	[外]指ナテ [内]板ナテ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]10YR8/3浅黄橙	普:1~5mmの石英・長石を含 む 良	
26	SP05	土師質土器 皿	6.2 5.0 0.9	[外]ナテ, 回転ヘラ切り [内]マツ	[外]10YR8/3浅黄橙 [内]10YR8/2灰白	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	
27	SP05	土師質土器 土鍋 (口縁)	(42.6) — [2.0]	[外]ヨコナテ, マツ [内]粗いウケ	[外]10YR5/3にぶい黄褐 [内]10YR6/4にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒・金雲母を 含む	外面口縁部に煤 化あり
28	中世 包含層	弥生土器 甕 (底部)	— — [4.3]	[外]マツ [内]マツ	[外]10YR6/4にぶい黄橙 [内]10YR5/3にぶい黄褐	普:2mm以下の石英・長石を 含む 良	
31	攪乱	瓦質土器 甕 (口縁)	(40.8) — [6.4]	[外]格子タタキ, ナテ [内]ナテ	[外]N3/暗灰 [内]N3/暗灰	普:4mm以下の石英・長石を 含む 良	亀山焼系瓦質土 器
32	第2調査 区 重機掘削	土師質土器 (底部)	— (10.2) [2.95]	[外]ヨコナテ [内]回転ナテ, ナテ	[外]2.5Y8/2灰白 [内]10YR7/3にぶい黄橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒・金雲母を 含む	
34	SD30 上層	瓦器 椀	(16.2) (7.0) 5.35	[外]回転ナテ, 指ナテ, 貼 付高台 [内]回転ナテ, ヘラミカキ	[外]N3/暗灰 [内]N4/灰	普:0.5mm以下の石英・長石 を含む 良	重ね焼き痕
35	SD30 上層	黒色土器A 椀 (底部)	— 5.7 [1.7]	[外]回転ナテ, ナテ [内]ヘラミカキ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]N4/灰	普:0.5mm以下の石英・長石 を含む 良	
36	SD30 上層	土製品 平瓦	[5.7] [8.9] [2.4]	[凹面]布目, ナテ消し [凸面]平行縄目タタキ, ナテ	[外]5Y8/1灰白 [内]5Y7/1灰白	普:2mm以下の石英・長石を 含む	
37	SD30 上層	土製品 丸瓦	[5.8] [9.7] 2.2	[凹面]布目, ケズリ [凸面]ナテ	[外]5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白	普:2mm以下の石英・長石・ 黒色粒を含む 良	
38	SD30 北側肩 上層	黒色土器A 椀 (底部)	— (15.8) [2.3]	[外]回転ナテ, マツ [内]回転ナテ	[外]2.5Y8/3淡黄 [内]5YR6/6橙	普:2mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	接合痕あり(や や不鮮明)内面 に暗文あり
39	SD30 南側肩 47層	黒色土器A 椀 (底部)	— (6.6) [2.8]	[外]回転ナテ, 貼付高台 [内]ヘラミカキ	[外]10YR8/2灰白 [内]N3/暗灰	普:1mm以下の石英・長石を 含む 良	
40	SD30 南側肩 47層	須恵器 壺 (底部)	— [10.8] [5.8]	[外]ナテ [内]ナテ, 指ナテ	[外]N6/灰 [内]N8/灰白	普:2mm以下の石英・長石・ 赤色粒・白色粒を含む 堅緻	
41	SD30 下層	黒色土器B 椀 (口縁)	— — [3.8]	[外]ヨコナテ, ヘラミカキ [内]ヨコナテ, ヘラミカキ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR6/2灰黄褐	普:2mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	被熱により黒色 土器が土師質に 変化
42	SD30 下層	黒色土器A 椀 (口縁)	— — [4.1]	[外]ヘラミカキ, 回転ナテ [内]ヘラミカキ	[外]2.5Y7/2灰黄 [内]N3/暗灰	普:1mm以下の石英・長石を 含む 良	
43	SD30 下層	黒色土器B 椀 (口縁)	(15.0) — [4.4]	[外]ヨコナテ, 指ナテ, ヘラミカ キ [内]ヨコナテ, ヘラミカキ	[外]N4/灰 [内]N3/暗灰	普:0.5mm以下の石英・長石 を含む 良	
44	SD30 下層	黒色土器A 椀 (底部)	— (7.1) [2.7]	[外]ヨコナテ, 回転ナテ [内]ヘラミカキ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR5/1褐灰	普:1mm以下の石英・長石を 含む 良	被熱により黒色 土器が土師質に 変化か?
45	SD30 下層	黒色土器A 椀 (底部)	— 5.9 [2.0]	[外]回転ナテ, 回転ヘラ切り, 貼付高台 [内]ヘラミカキ	[外]10YR8/2灰白 [内]N3/暗灰	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒を含む 良	
46	SD30 下層	黒色土器B 椀 (底部)	— 6.7 [3.2]	[外]回転ナテ, ナテ [内]ヘラミカキ, ナテ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]10YR5/1褐灰	普:3mm以下の石英・長石を 含む 良	被熱により黒色 土器が土師質に 変化
47	SD30 下層	黒色土器A 椀 (底部)	— 5.2 [3.4]	[外]ヘラミカキ, 回転ナテ [内]板ナテ	[外]10YR7/2にぶい黄橙 [内]N3/暗灰	普:1mm以下の石英・長石を 含む 良	有機質付着
48	SD30 下層	須恵器 壺	(16.8) — [2.6]	[外]回転ナテ, 回転ヘラクス リ [内]回転ナテ	[外]5Y7/1灰白 [内]5Y7/1灰白	普:1mm以下の石英・長石・ 黒色粒を含む 良	
49	SD30 下層	土師質土器 皿	(12.0) — [2.65]	[外]マツ [内]マツ	[外]5YR7/6橙 [内]5YR7/6橙	普:1mm以下の石英・長石・ 赤色粒・黒色粒を含む 良	



1 調査区周辺全景（南東から）



1 第1調査区 第2遺構面全景（南から）



2 第2調査区 第1遺構面全景（南から）



1 第1調査区 SX01完掘状況（東から）



2 第1調査区 調査区北側完掘状況（北から）



1 第2調査区 完掘状況（北から）



2 第2調査区 SD30完掘状況（南西から）



1 第1調査区 SK10 断面 (南西から)



2 第1調査区 SD18 平面・断面 (北東から)



1 第1調査区 西壁断面①（東から）



2 第1調査区 西壁断面②（北東から）



1 第2調査区 SD30西壁断面①（東から）



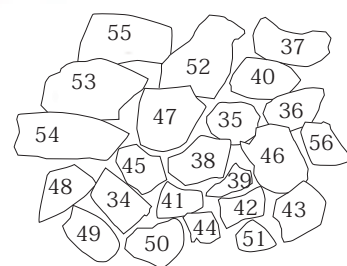
2 第2調査区 SD30西壁断面②（東から）



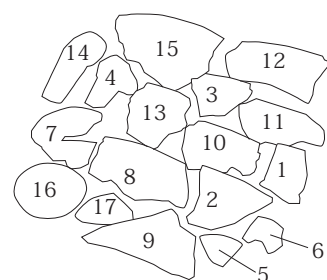
1 第2調査区 SD32断面 (東から)



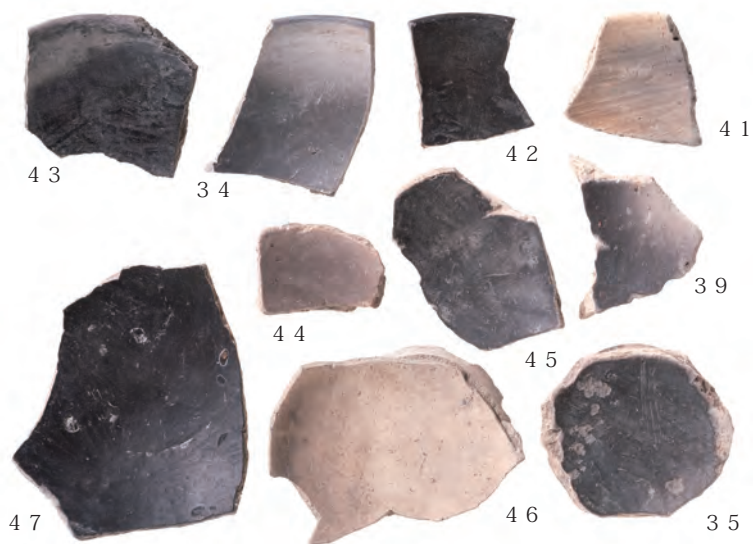
2 第2調査区 SD30東壁 (西から)



SD30 出土土器



SX01・27 出土土器



SD30 出土土器 (1)



SD30 出土土器(2)



SX01·27 出土土器



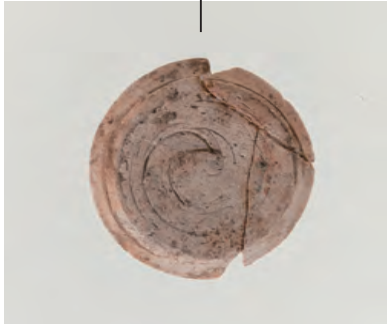
22



26



SP21 出土土器



SP05 出土土器



24



23



21

SP20.21.23 出土土器



20

SK04 出土土器



25

SB01-SP11 出土土器



32

重機掘削 出土土器



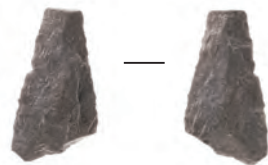
31

攪乱 出土土器



27

SP05 出土土器



29

包含層 出土石器

報 告 書 抄 録

ふりがな	みずたいせき (だい2じちょうさ)							
書名	水田遺跡 (第2次調査)							
副書名	国道11号高松東道路関連整備事業東山崎町51号線整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第1冊							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第206集							
編著者名	船築 紀子、森原 奈々 (編)							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2660							
発行年月日	令和2年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	発掘期間	発掘 面積	発掘 原因
		市町村	遺跡番号					
みずたいせき 水田遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 ひがしやまさきちょう 東山崎町	37201		34° 17' 58"	134° 05' 59"	2018. 2. 5～ 2018. 3. 7	304. 6㎡	道路 整備 事業
所収遺跡名	種別	おもな時代	おもな遺構	おもな遺物		特記事項		
水田遺跡	集落遺跡	古代 中世	溝 性格不明遺構 掘立柱建物 土坑	土師質土器 須恵器 黒色土器 など		中世の溝と出水状 遺構を検出した。		
要 約	<p>今回の調査では、第1調査区で出水状の遺構を、第2調査区で大規模な溝を1条と溝2条を検出した。出水状遺構や溝は、複数回にわたる洪水砂で埋没しており、中世において、この地域で洪水が頻発していたことがうかがえる。</p> <p>また、出水状遺構や溝からは古代末の土器が多量に出土しており、周辺の調査からは、本調査区の西側に古代末から中世初頭の集落が展開していたと想定できる。</p>							

2020年3月31日 発行

高松市埋蔵文化財調査報告第206集
国道11号高松東道路関連整備事業
東山崎51号線道路整備に伴う埋蔵文化財調査報告書
水田遺跡（第2次調査）

著作権所有 高松市番町一丁目8番15号
発行者 高松市教育委員会
印刷者 有限会社 中央ファイリング